

## 小規模企業景気動向調査 [2025年12月期調査]

### ～業種間に差はあるものの、年末需要が追い風となった小規模企業景況～

#### ＜産業全体＞

12月期の産業全体の景況は、売上額・採算・業況DIがわずかに上昇、資金繰りDIは不变であった。物価高や人件費上昇によるコスト増が続く中、価格転嫁や自助努力で売上維持・微増している事例も見られた。業界・業種間での景況感は、年末需要の影響を受ける業種は好調な一方、機械・金属製造業や建設業では先行きに不透明感が残る結果となった。

DI	11月	12月	前月比	前年同月比
売上額	6.7	8.2	1.5	▲ 1.1
採算	▲ 17.4	▲ 16.5	0.9	▲ 0.1
資金繰り	▲ 14.4	▲ 14.3	0.1	0.4
業況	▲ 13.7	▲ 12.5	1.2	0.3

#### ＜製造業(食料品、繊維、機械・金属)＞食料品関連がけん引、回復基調への転換が期待される製造業

製造業は売上額DIが大幅に上昇、採算・業況DIは小幅に上昇し、資金繰りDIはわずかに上昇した。全DIが10月期調査から2期連続かつ前年ベースでも上昇しており、物価高騰や人件費増の影響に懸念があるも、持ち直しの動きが一部で見られた。全体として原材料価格の高騰に苦しむ声が散見され、機械・金属関連は業況を除くDIが低下したが、食料品及び繊維関連は季節需要等により好調に推移。業種によって明暗が分かれた。

DI	11月	12月	前月比	前年同月比
売上額	8.8	14.4	5.6	4.7
採算	▲ 19.3	▲ 16.5	2.8	1.7
資金繰り	▲ 14.8	▲ 13.6	1.2	1.9
業況	▲ 13.6	▲ 11.0	2.6	3.3

#### ＜建設業＞前月から一転して全DIが低下、持続的な改善に課題が残る建設業

建設業は、採算DIが若干に低下、売上額・資金繰り・業況DIは小幅に低下した。前年ベースでも全DIが低下。一部で金利上昇を背景とした新築住宅の駆け込み需要等により受注が増加したとの声もあるが、資材高騰や人手不足に苦しむ事業者が多い状況である。特に、人手不足は工期の遅延や外注費の増加に繋がり、採算の悪化を招いており、引き続き人材の確保や省力化、業務効率化の取り組みが急がれる。

DI	11月	12月	前月比	前年同月比
売上額	11.3	9.0	▲ 2.3	▲ 3.5
採算	▲ 14.5	▲ 16.1	▲ 1.6	▲ 0.3
資金繰り	▲ 12.6	▲ 16.6	▲ 4.0	▲ 0.3
業況	▲ 9.6	▲ 11.8	▲ 2.2	▲ 1.4

#### ＜小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)＞年末需要で一時的な持ち直しも、先行き慎重な小売業

小売業は、売上額・資金繰りDIがわずかに上昇、採算・業況DIは不变であった。耐久消費財関連は、季節需要等の影響により売上額DIで持ち直しを見せた。食料品関連は、年末需要による売上増加の声が一部で見られたが、仕入価格の上昇分を思うように価格転嫁できない事業者も多く、採算改善にはなお時間を要する。衣料品関連は、年末需要がある一方で、顧客の節約志向も継続しており、資金繰りDIのみの上昇となった。

DI	11月	12月	前月比	前年同月比
売上額	2.8	4.7	1.9	▲ 1.4
採算	▲ 19.7	▲ 19.6	0.1	▲ 1.0
資金繰り	▲ 17.4	▲ 16.0	1.4	0.9
業況	▲ 17.9	▲ 17.9	0.0	0.5

#### ＜サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)＞年末需要が下支えし、持ち直しの兆しが見られるサービス業

サービス業は、採算・業況DIが小幅に上昇、売上額・資金繰りDIはわずかに上昇した。旅館関連は、一部で人手不足による稼働率低下が見受けられたが、年末帰省や観光需要の高まりにより、大幅な業況悪化には至らなかった。クリーニング関連は全DIが上昇。売上額DIは7月期以来6か月ぶりにマイナス圏を脱した。理・美容関連では、年末需要の影響を受けて好調との声が散見され、売上額DIは8月期ぶりに0ポイントを上回った。

DI	11月	12月	前月比	前年同月比
売上額	3.9	4.5	0.6	▲ 4.6
採算	▲ 16.3	▲ 13.9	2.4	▲ 0.8
資金繰り	▲ 12.8	▲ 10.9	1.9	▲ 0.7
業況	▲ 13.6	▲ 9.0	4.6	▲ 1.0

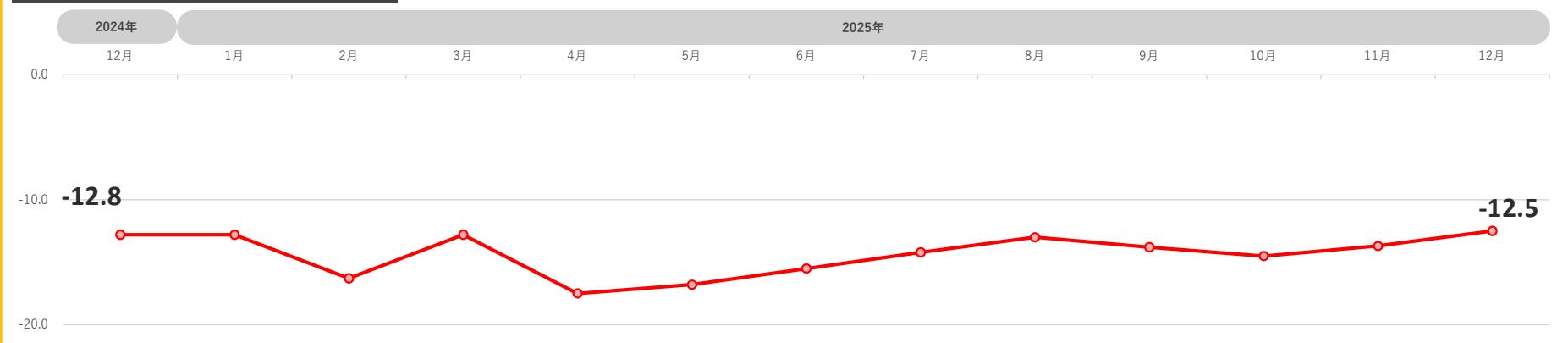
#### 調査概要

- 調査対象: 全国303商工会の経営指導員(有効回答数: 240/回答率 79.2%)
  - 調査時点: 2025年12月末
  - 調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
- ※ DI(景気動向指標)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

## 小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



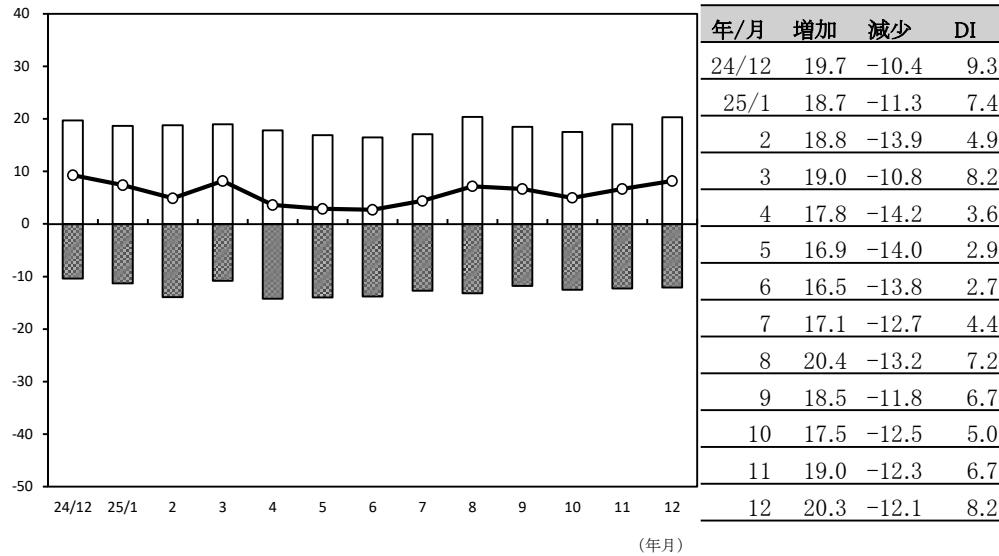
## 産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



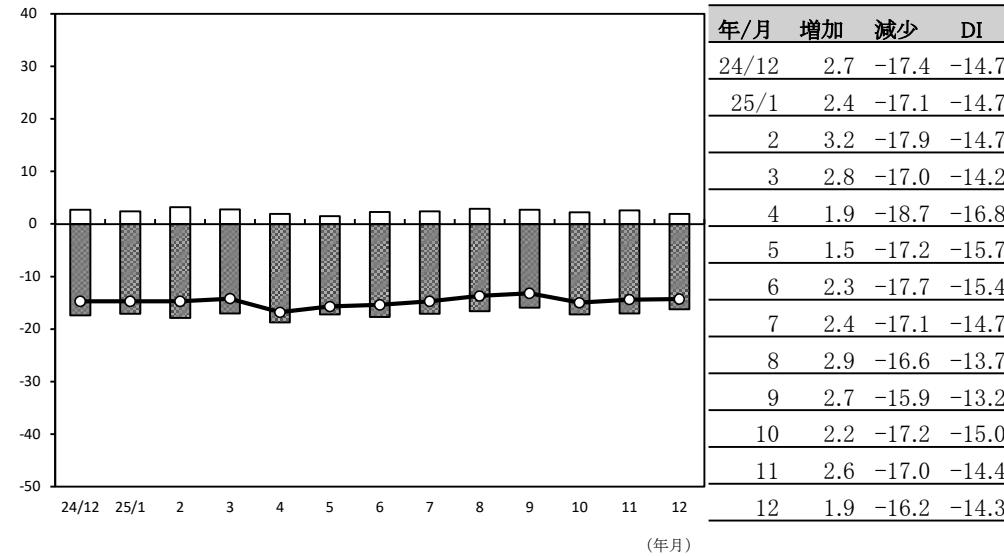
# 小規模企業景気動向調査(2025年12月期)

## 産業全体(前年同月比)

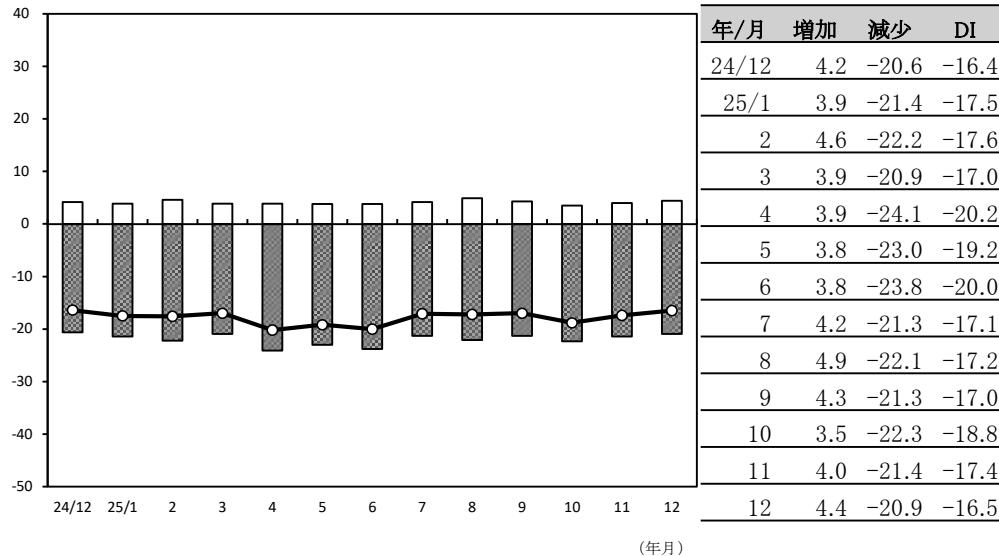
売上額



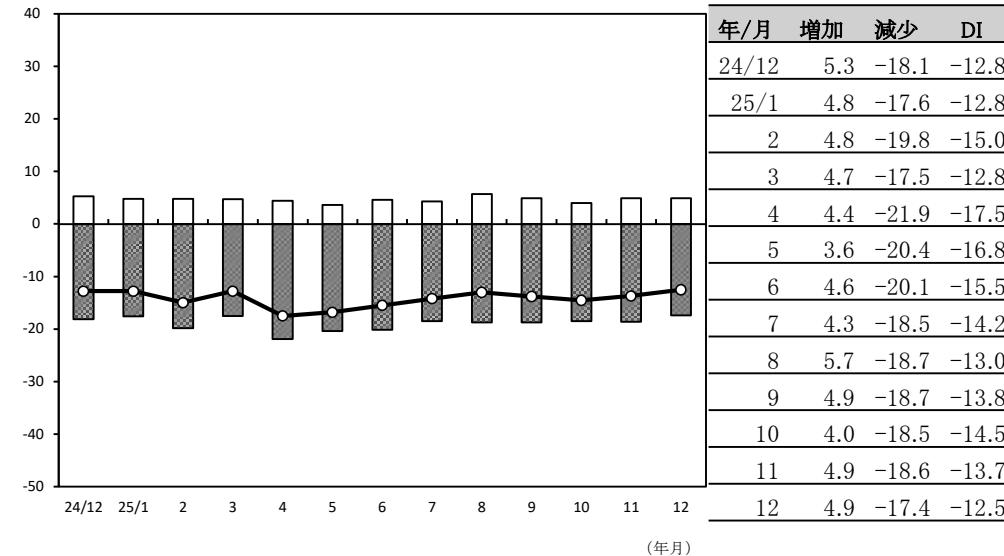
資金繰り



採算

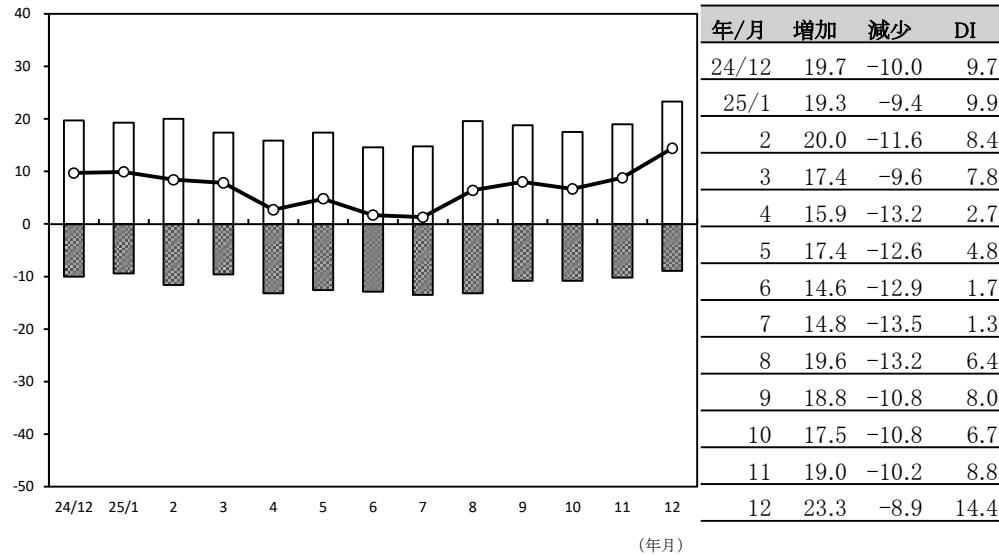


業界の業況

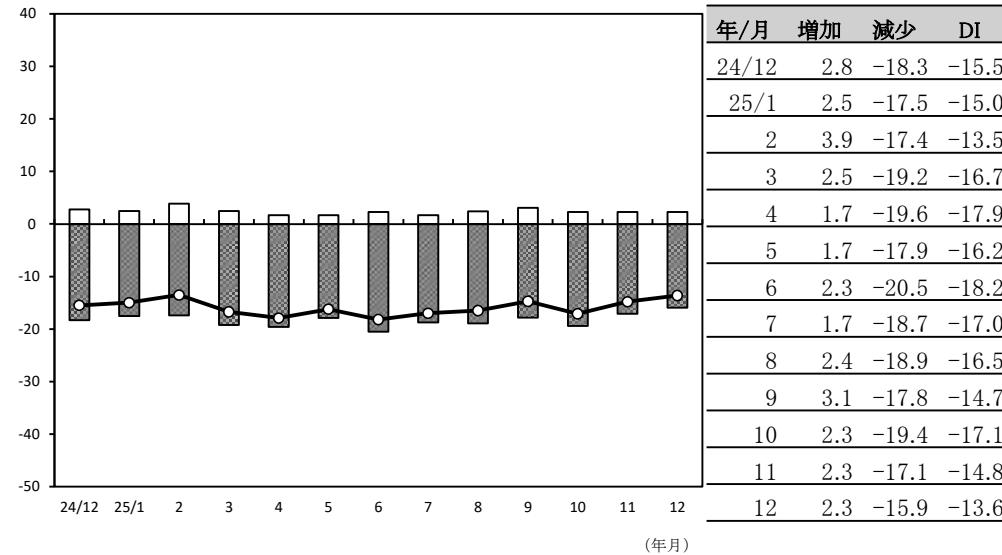


## 製 造 業(前年同月比)

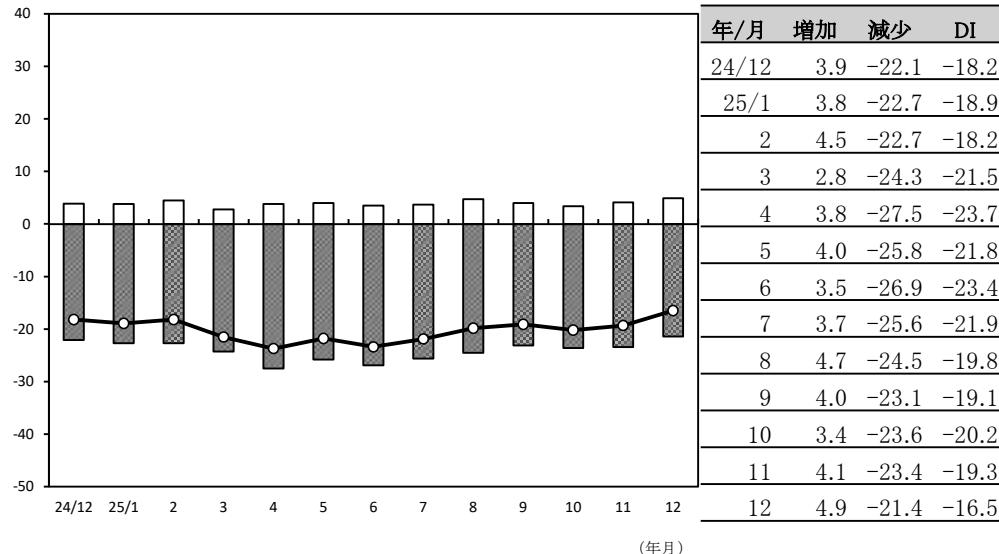
売上額



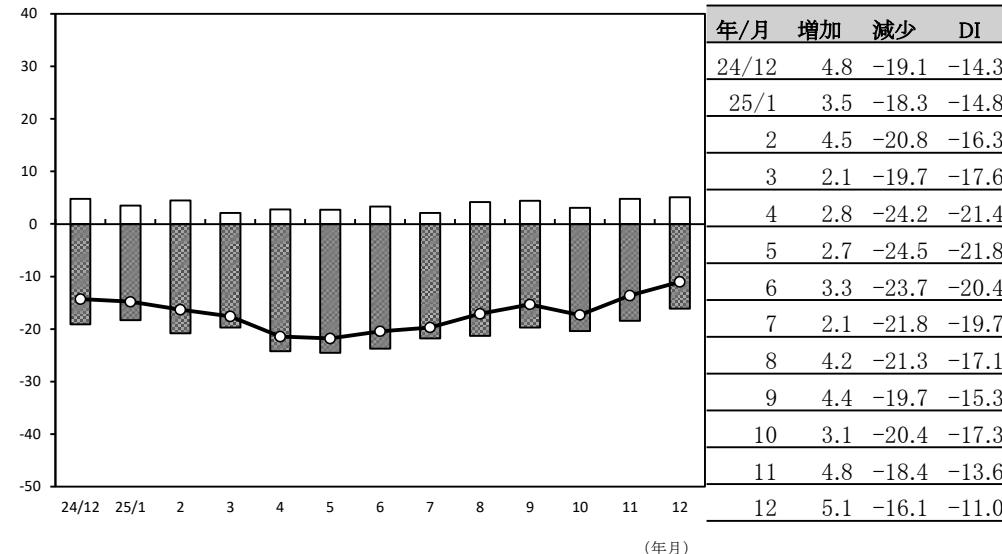
資金繰り



採算

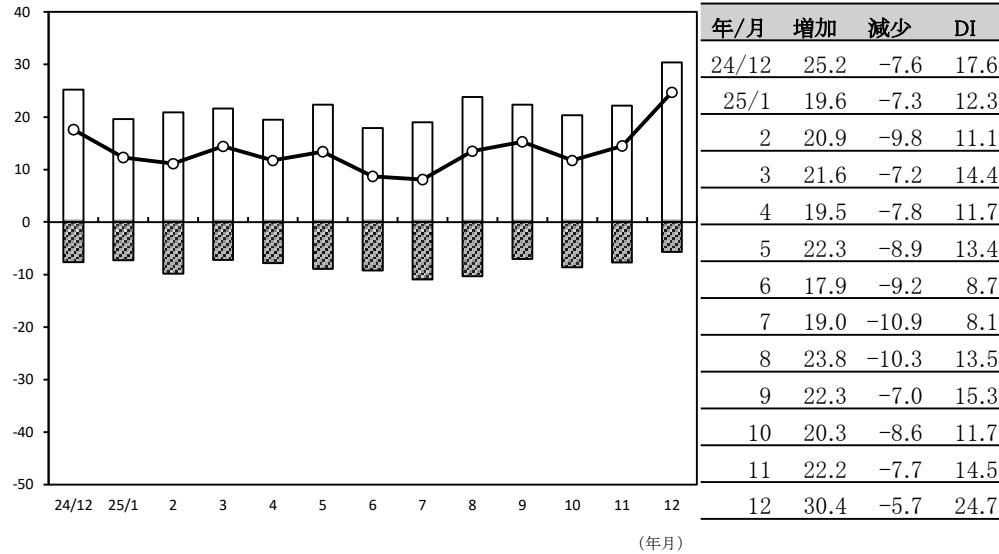


業界の業況

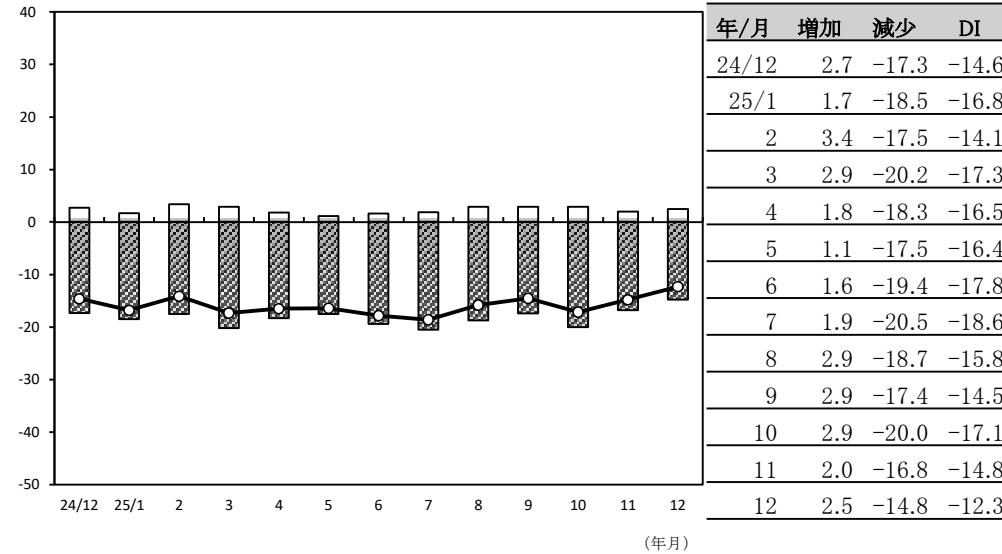


## 製造業【食料品】(前年同月比)

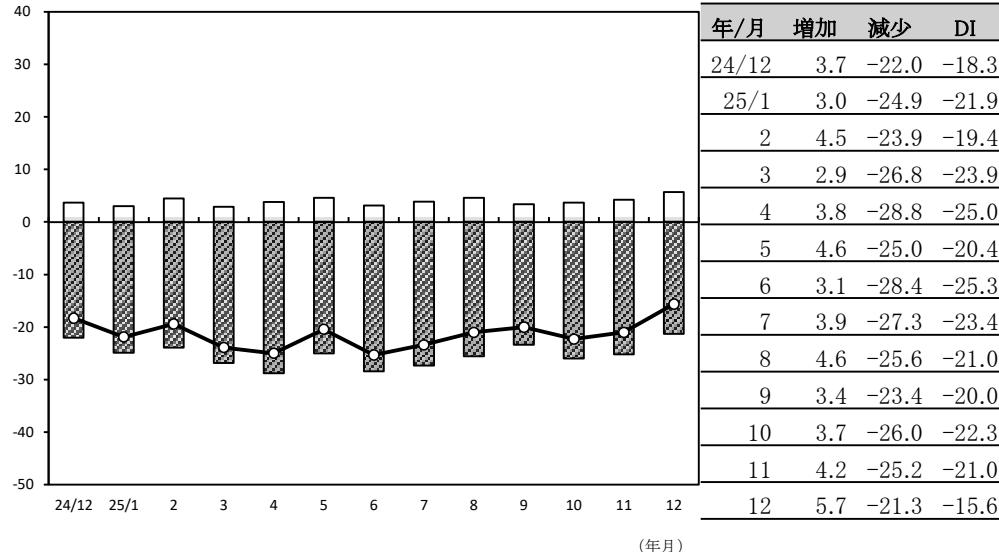
売上額



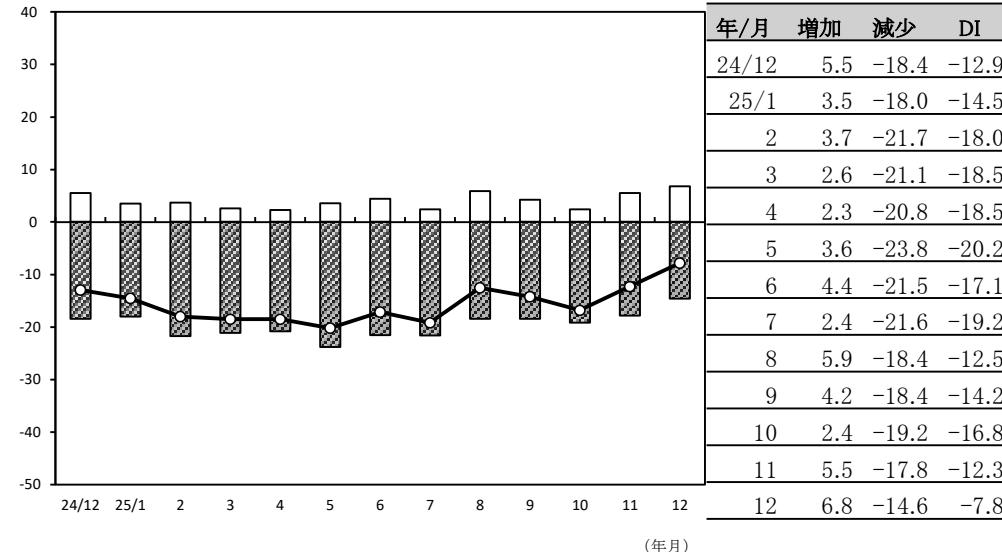
資金繰り



採算

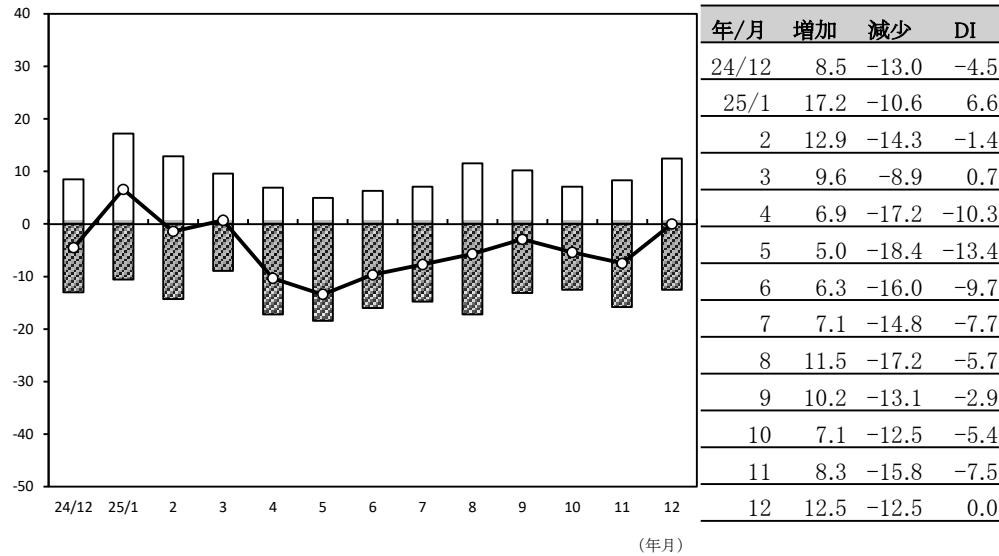


業界の業況

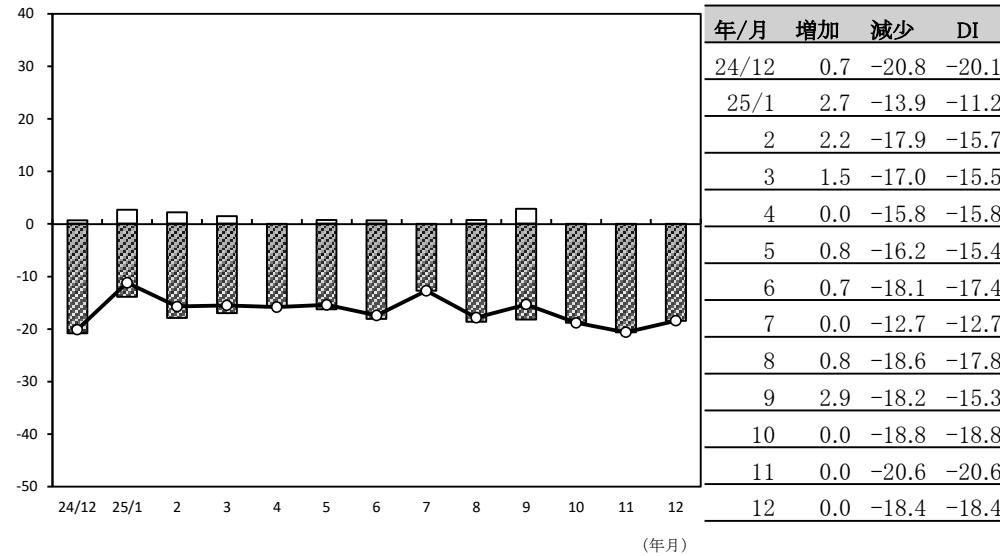


## 製造業【繊維】(前年同月比)

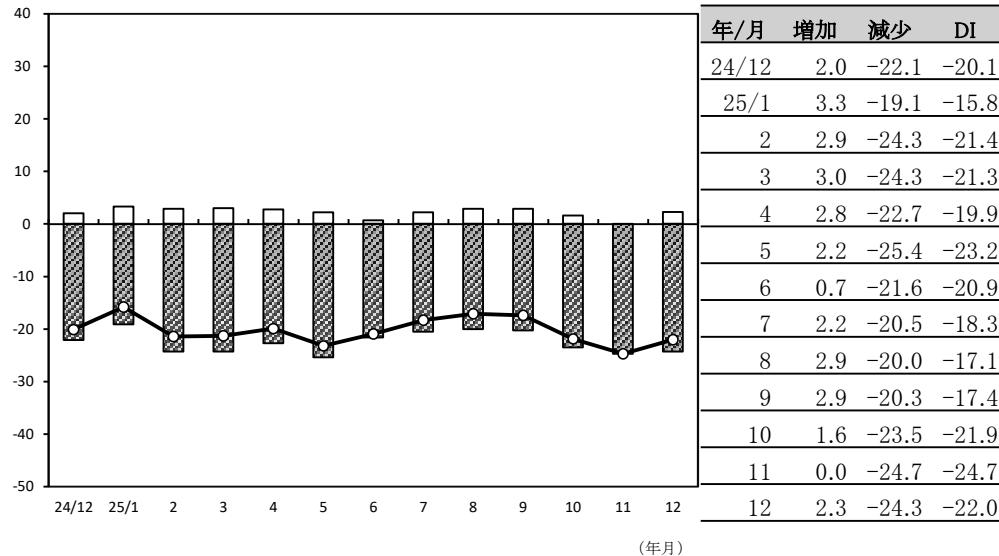
売上額



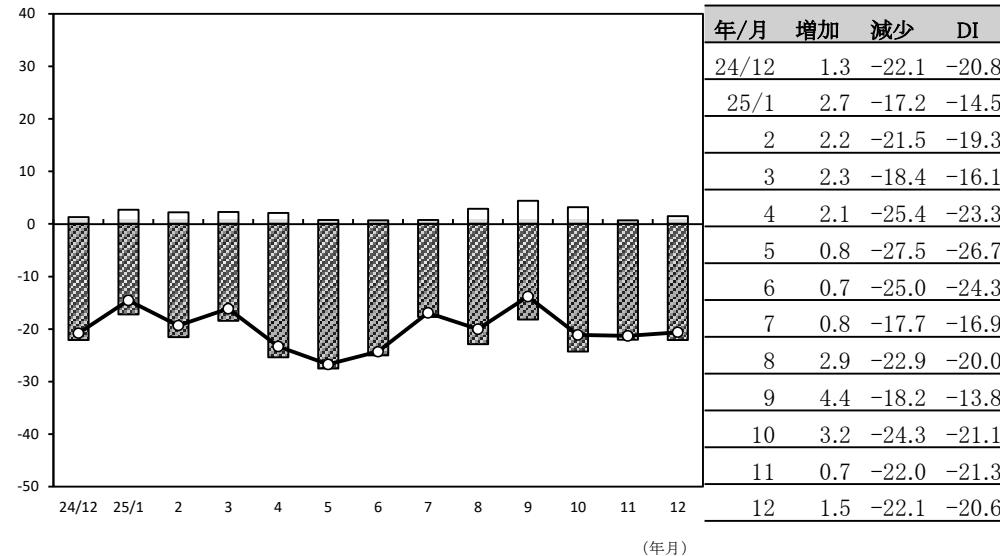
資金繰り



採算

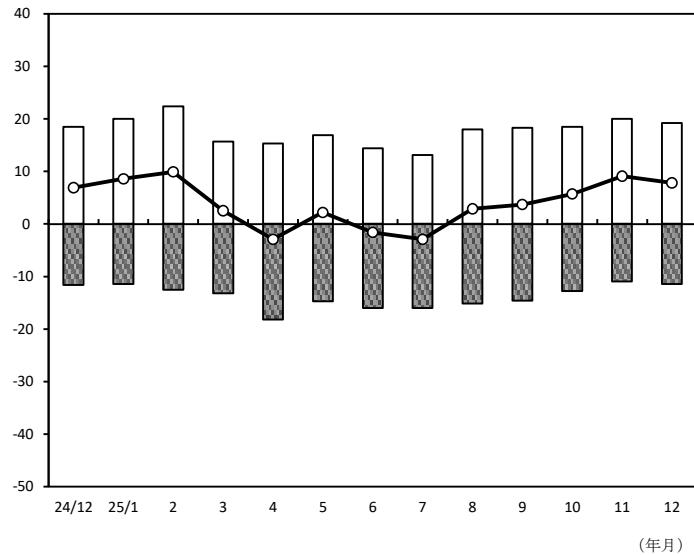


業界の業況

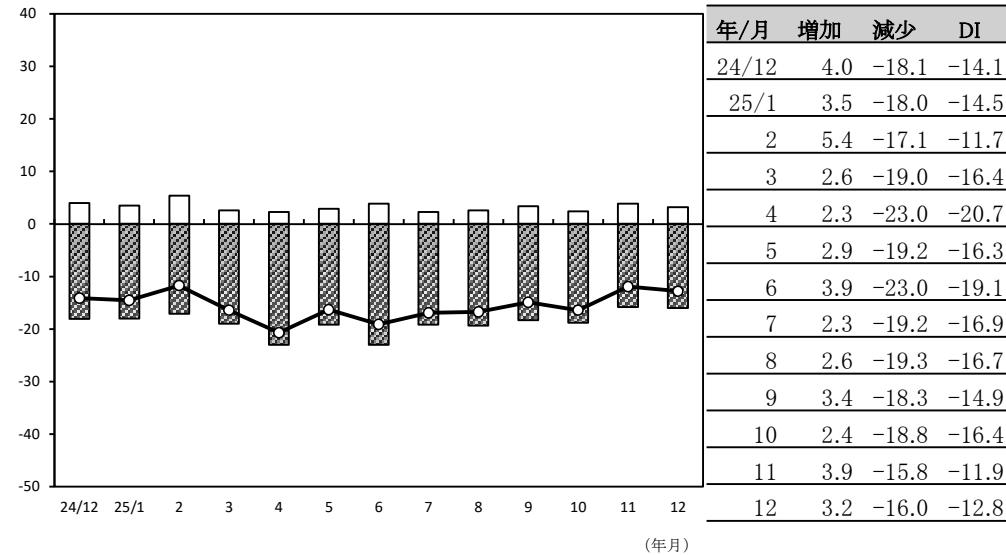


## 製造業【機械・金属】(前年同月比)

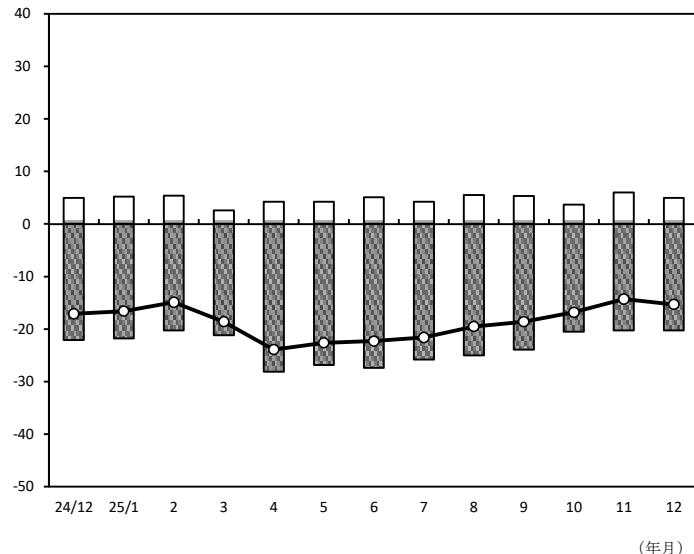
売上額



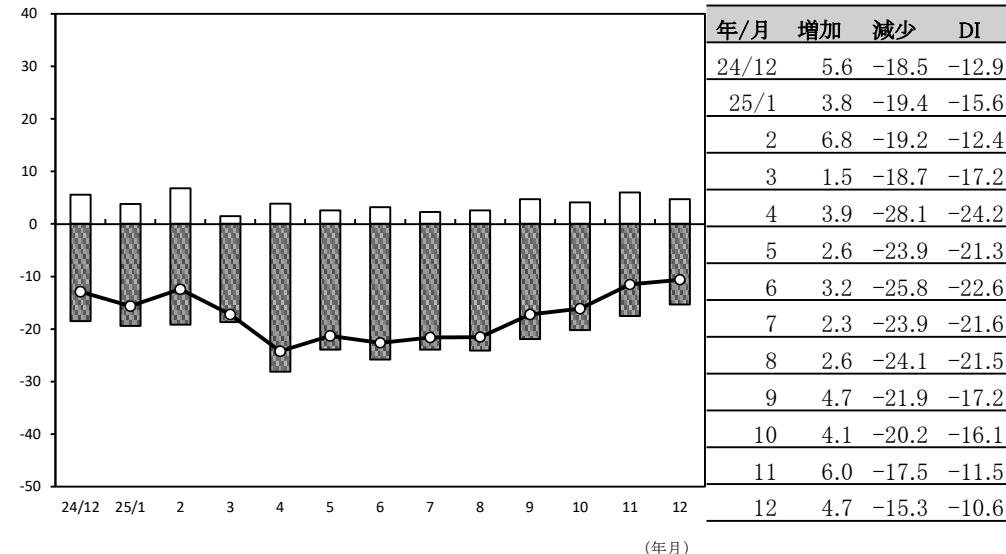
資金繰り



採算

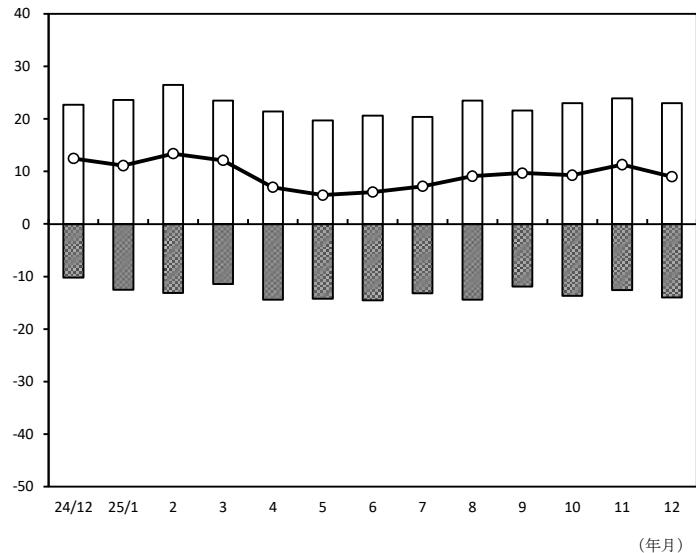


業界の業況

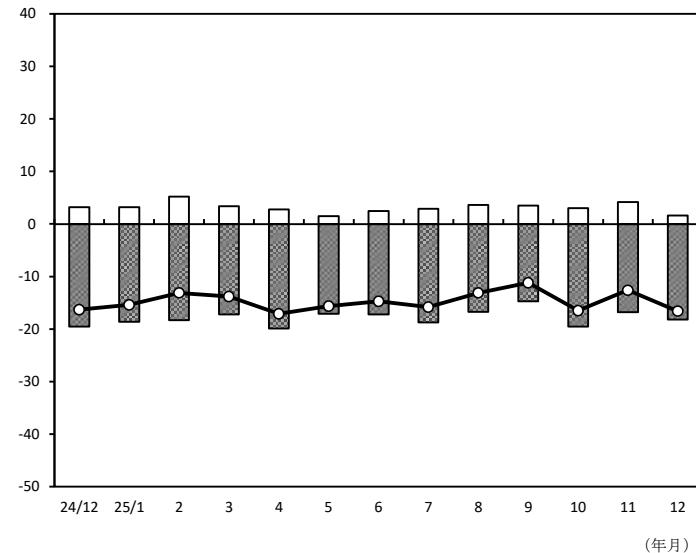


## 建設業(前年同月比)

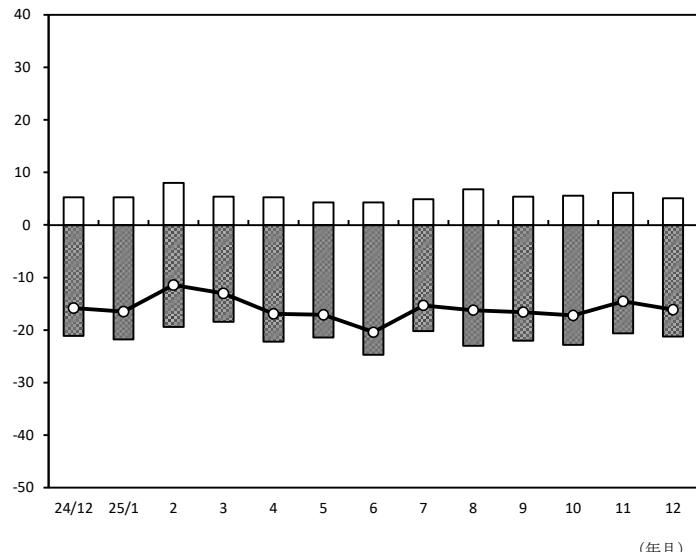
売上額



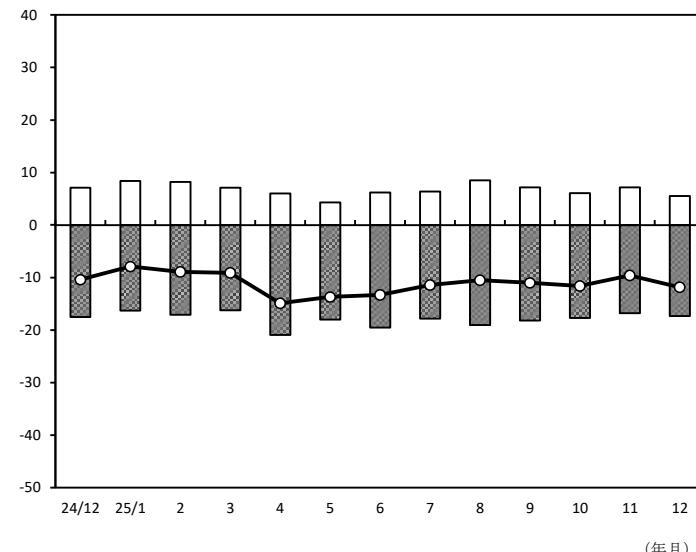
資金繰り



採算

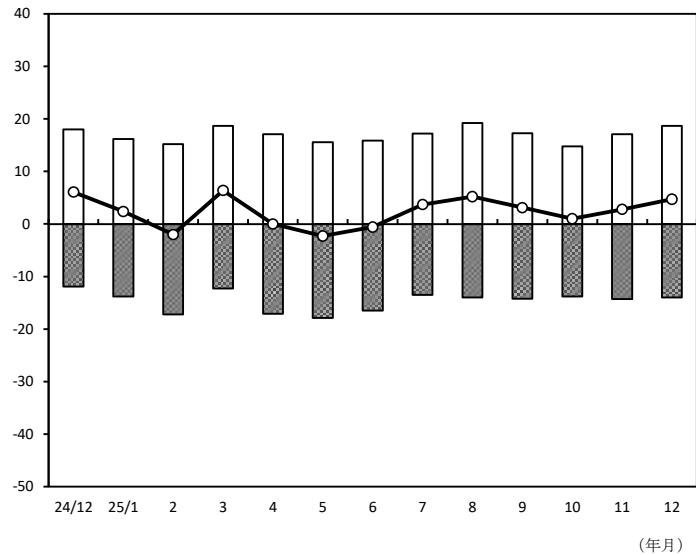


業界の業況



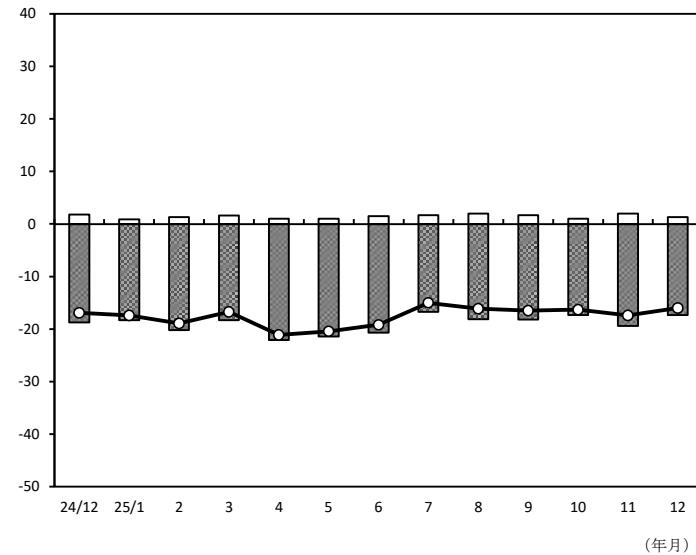
## 小 売 業(前年同月比)

売上額



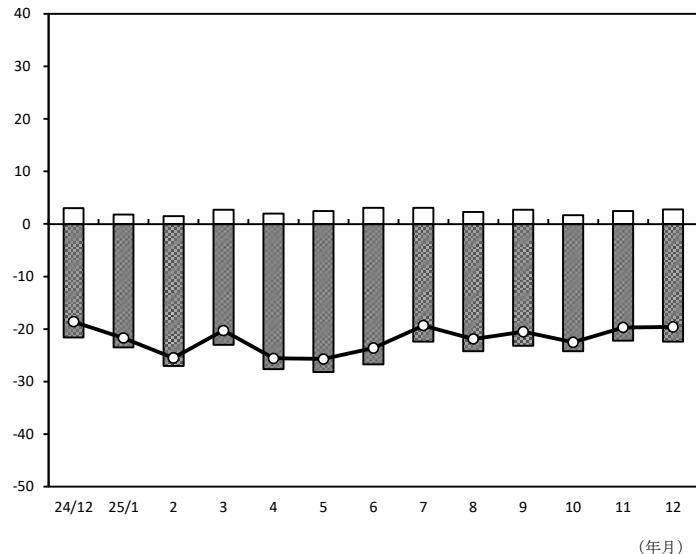
年/月	増加	減少	DI
24/12	18.0	-11.9	6.1
25/1	16.2	-13.8	2.4
2	15.2	-17.2	-2.0
3	18.7	-12.3	6.4
4	17.1	-17.1	0.0
5	15.6	-17.9	-2.3
6	15.9	-16.5	-0.6
7	17.2	-13.5	3.7
8	19.2	-14.0	5.2
9	17.3	-14.2	3.1
10	14.8	-13.8	1.0
11	17.1	-14.3	2.8
12	18.7	-14.0	4.7

資金繰り



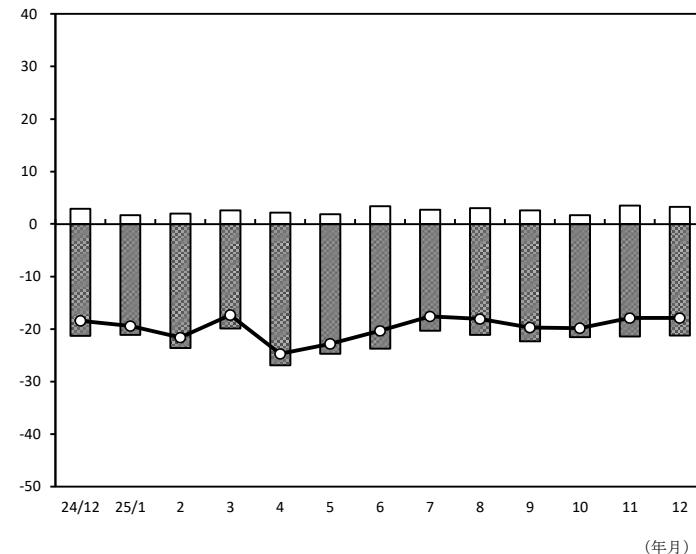
年/月	増加	減少	DI
24/12	1.8	-18.7	-16.9
25/1	0.9	-18.3	-17.4
2	1.3	-20.2	-18.9
3	1.6	-18.3	-16.7
4	1.0	-22.1	-21.1
5	1.0	-21.4	-20.4
6	1.5	-20.7	-19.2
7	1.7	-16.7	-15.0
8	2.0	-18.1	-16.1
9	1.7	-18.2	-16.5
10	1.0	-17.3	-16.3
11	2.0	-19.4	-17.4
12	1.3	-17.3	-16.0

採算



年/月	増加	減少	DI
24/12	3.0	-21.6	-18.6
25/1	1.8	-23.5	-21.7
2	1.5	-27.0	-25.5
3	2.7	-23.0	-20.3
4	2.0	-27.6	-25.6
5	2.5	-28.2	-25.7
6	3.1	-26.7	-23.6
7	3.1	-22.4	-19.3
8	2.3	-24.2	-21.9
9	2.7	-23.2	-20.5
10	1.7	-24.2	-22.5
11	2.5	-22.2	-19.7
12	2.8	-22.4	-19.6

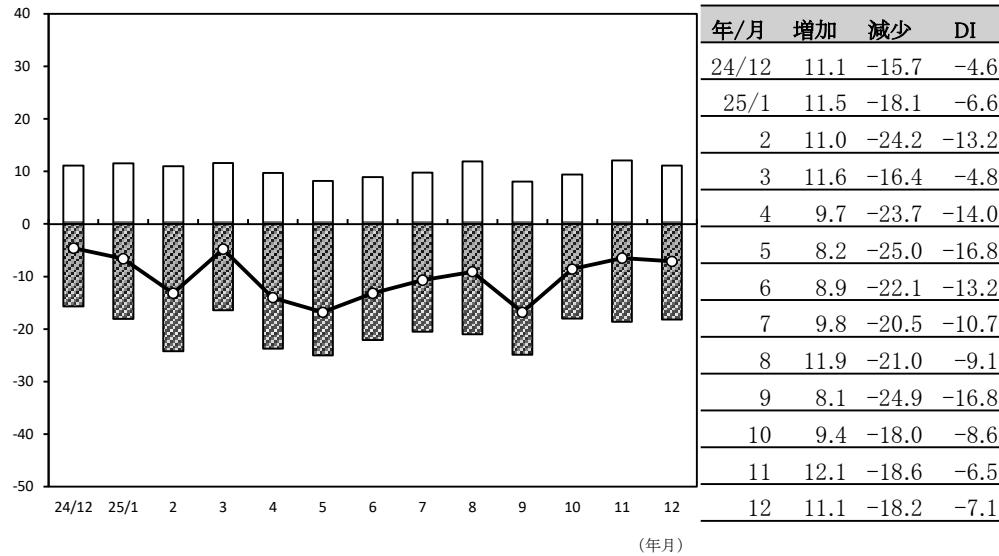
業界の業況



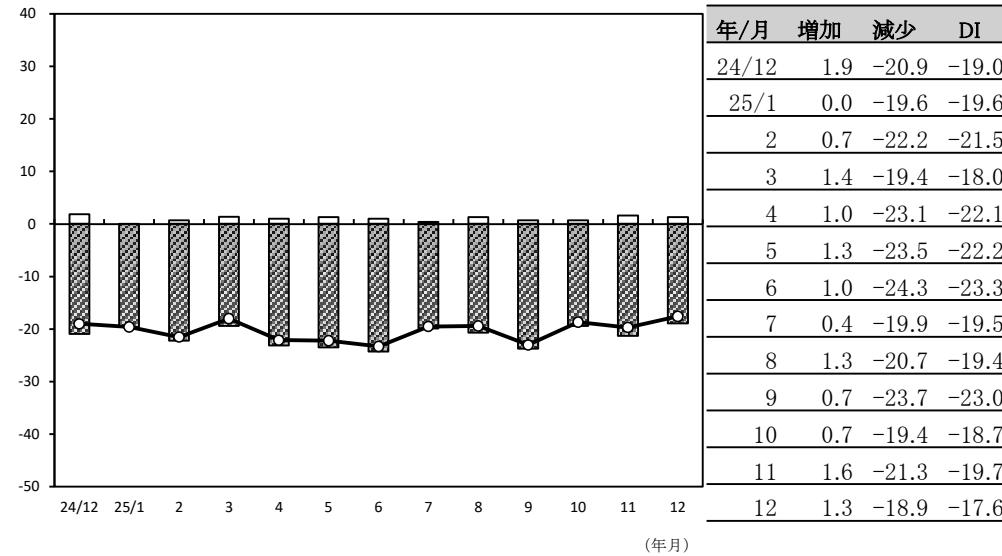
年/月	増加	減少	DI
24/12	2.9	-21.3	-18.4
25/1	1.7	-21.1	-19.4
2	2.0	-23.6	-21.6
3	2.6	-19.9	-17.3
4	2.2	-26.9	-24.7
5	1.9	-24.7	-22.8
6	3.4	-23.7	-20.3
7	2.7	-20.3	-17.6
8	3.0	-21.1	-18.1
9	2.6	-22.3	-19.7
10	1.7	-21.5	-19.8
11	3.5	-21.4	-17.9
12	3.3	-21.2	-17.9

## 小売業【衣料品】(前年同月比)

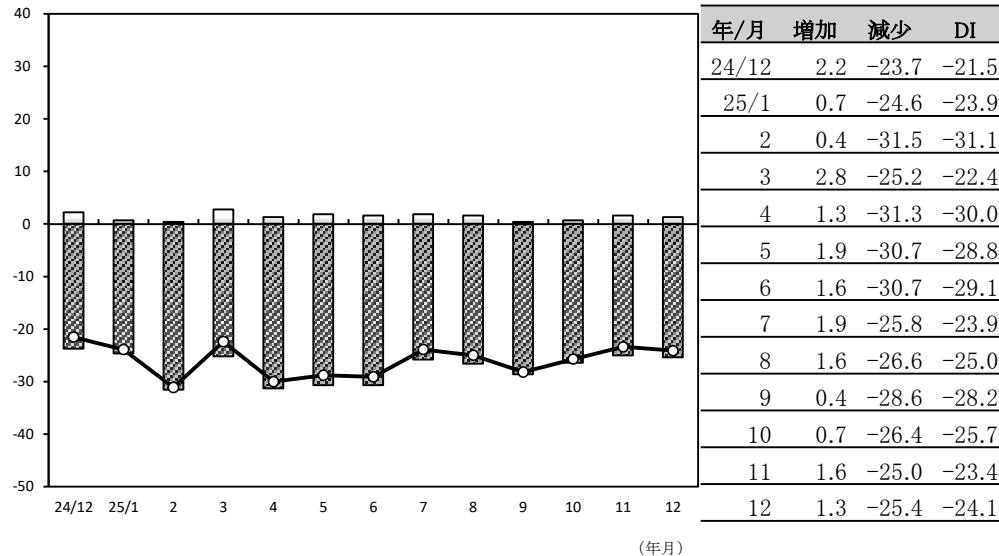
売上額



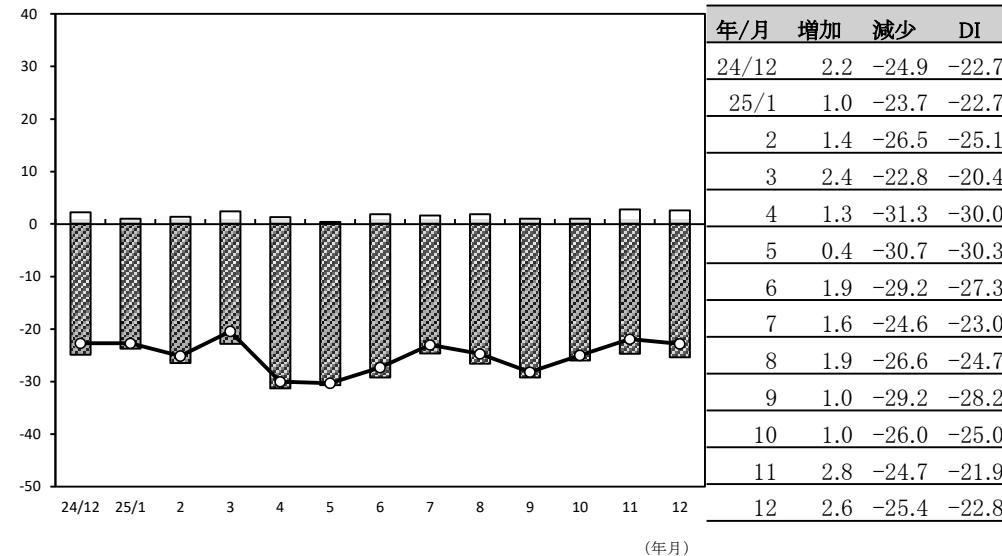
資金繰り



採算

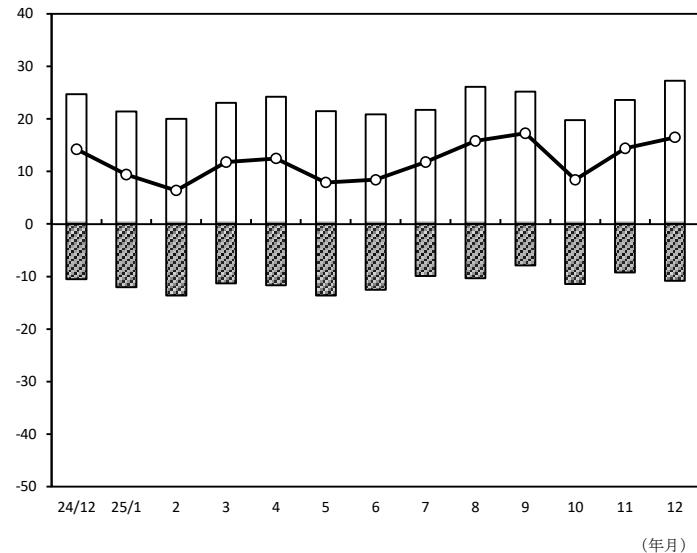


業界の業況

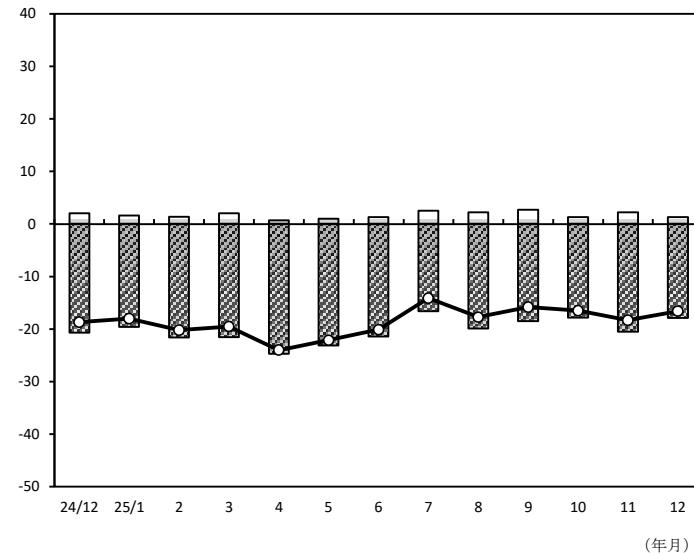


## 小売業【食料品】(前年同月比)

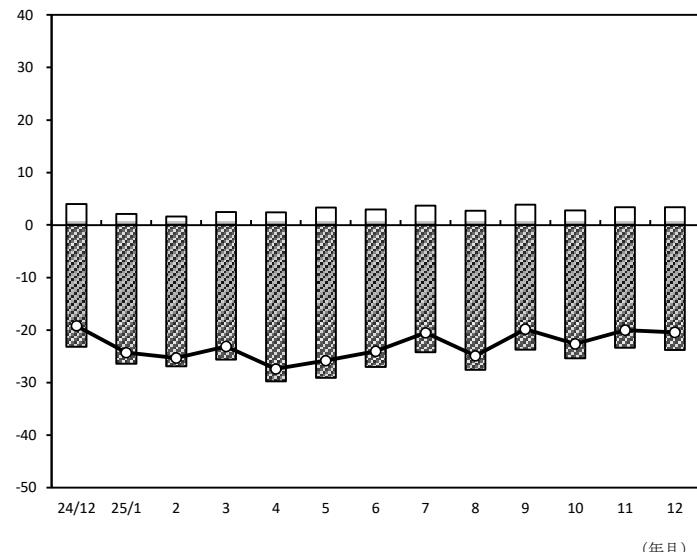
売上額



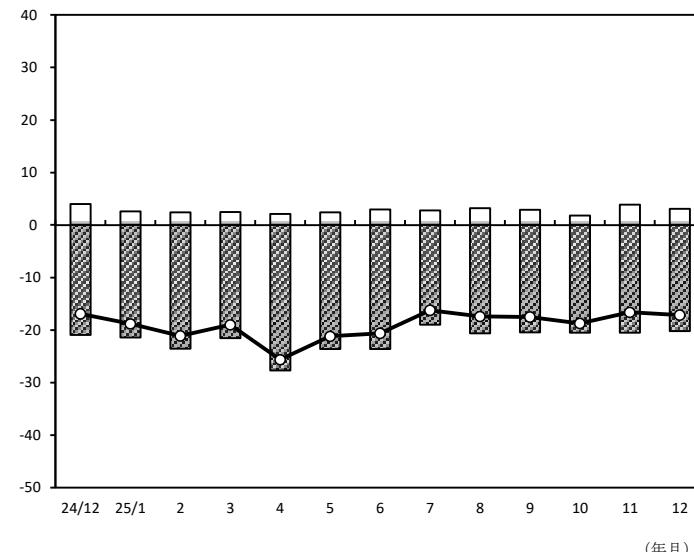
資金繰り



採算

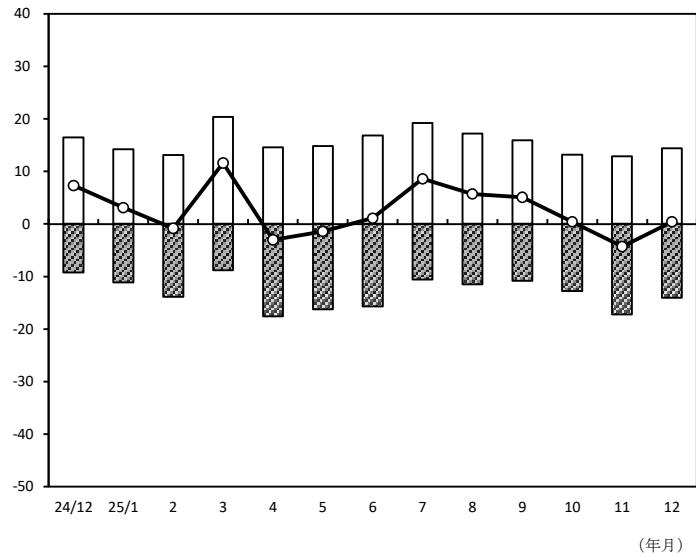


業界の業況

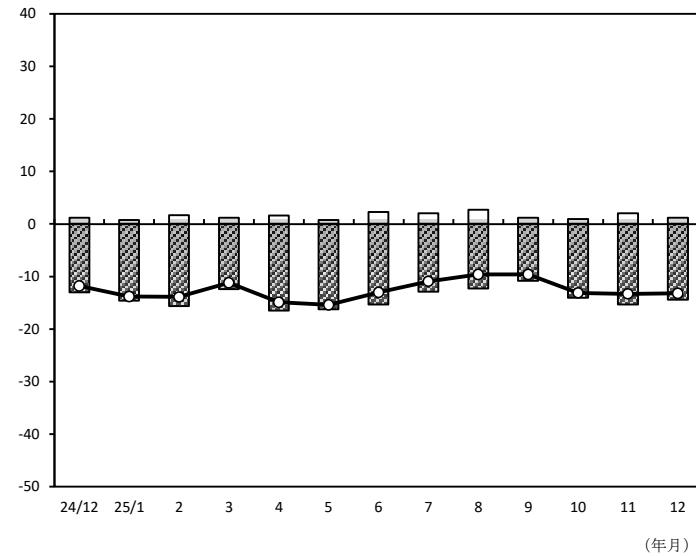


## 小 売 業 【耐久消費財】(前年同月比)

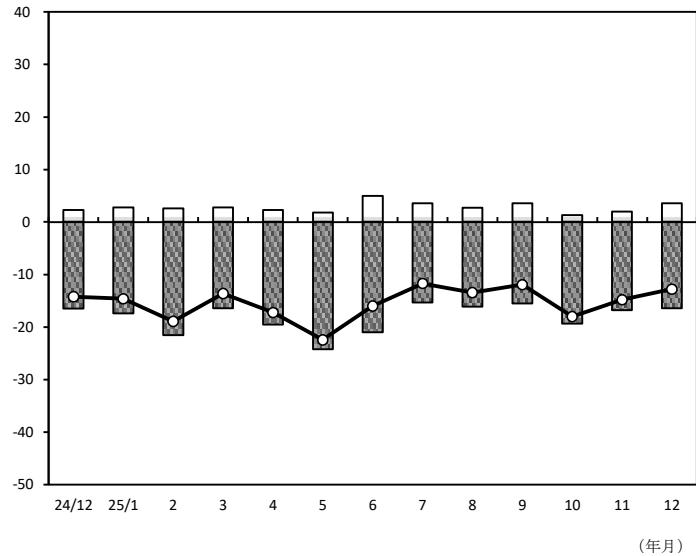
売上額



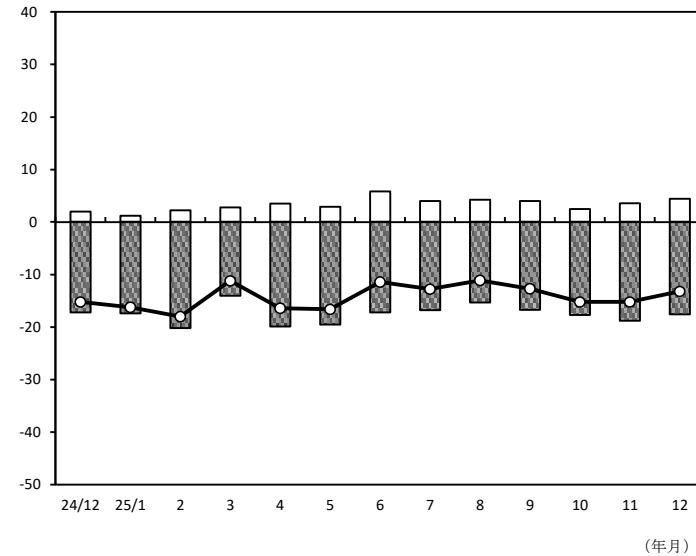
資金繰り



採算

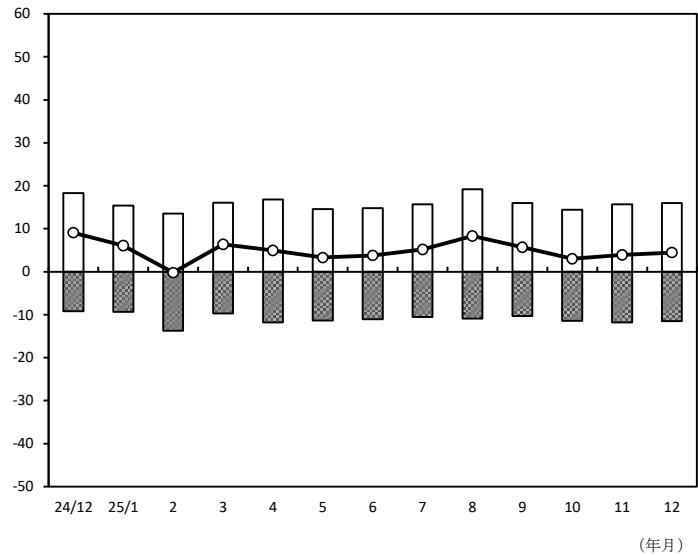


業界の業況

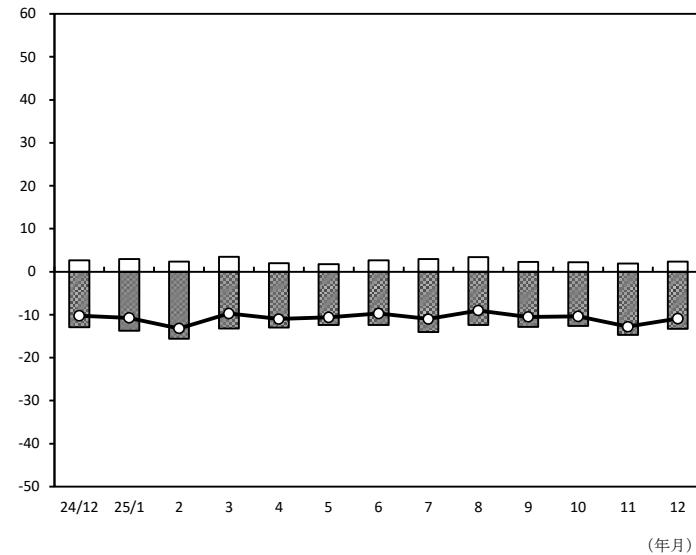


## サービス業(前年同月比)

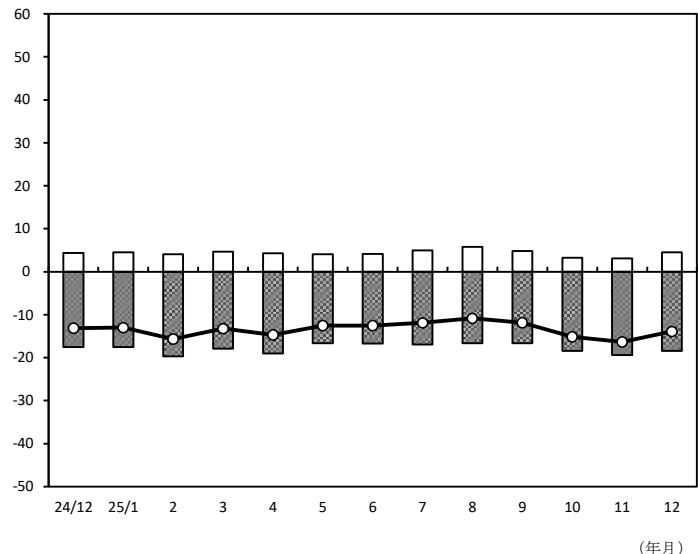
売上額



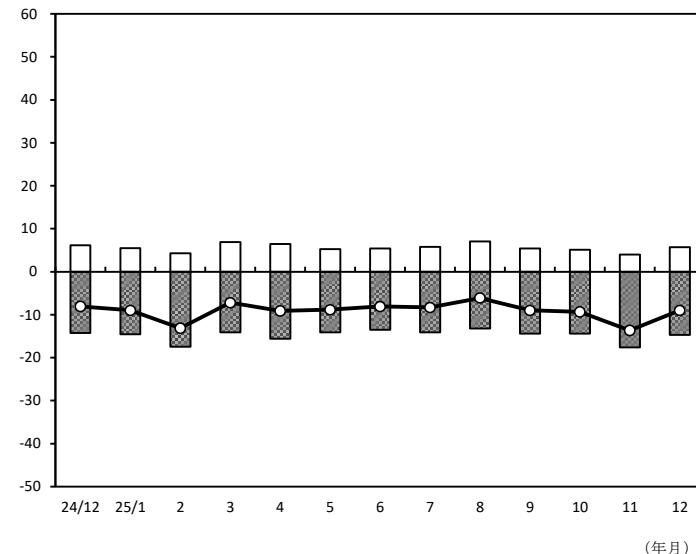
資金繰り



採算

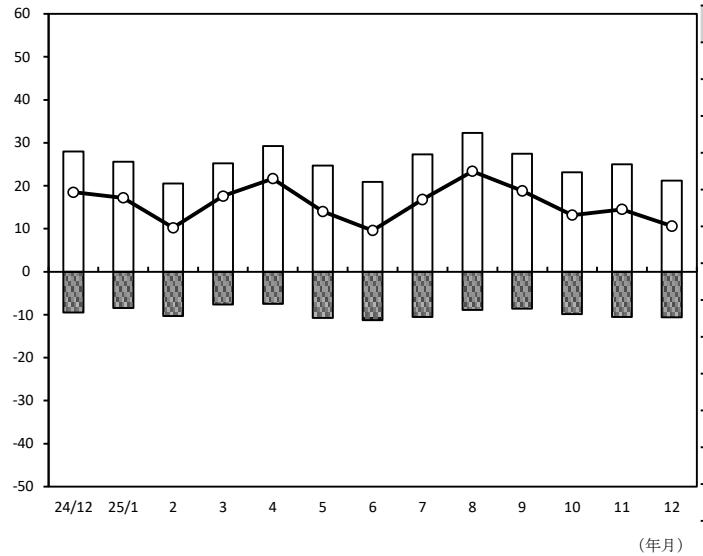


業界の業況

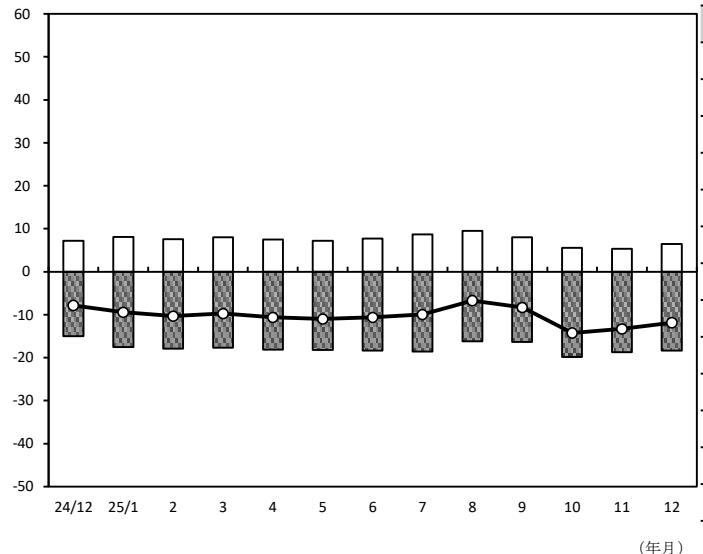


## サービス業 【旅館】 (前年同月比)

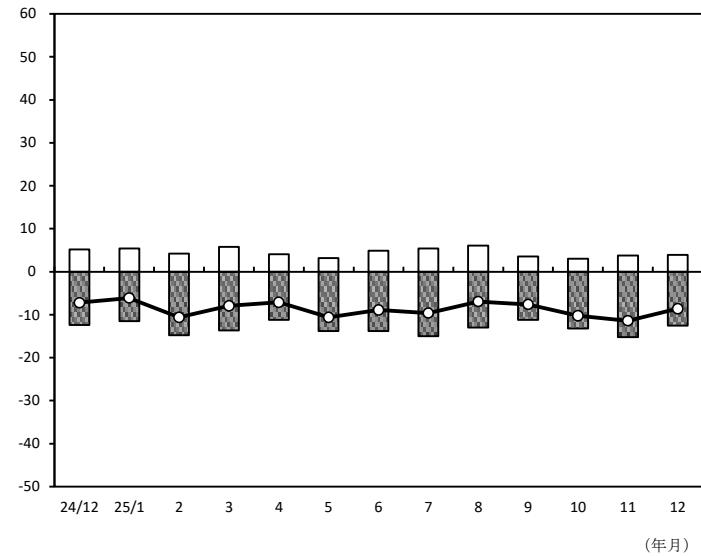
売上額



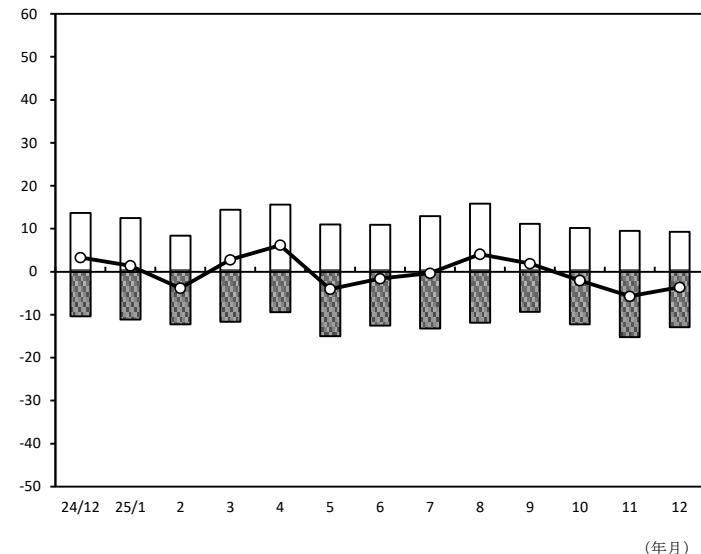
採算



資金繰り

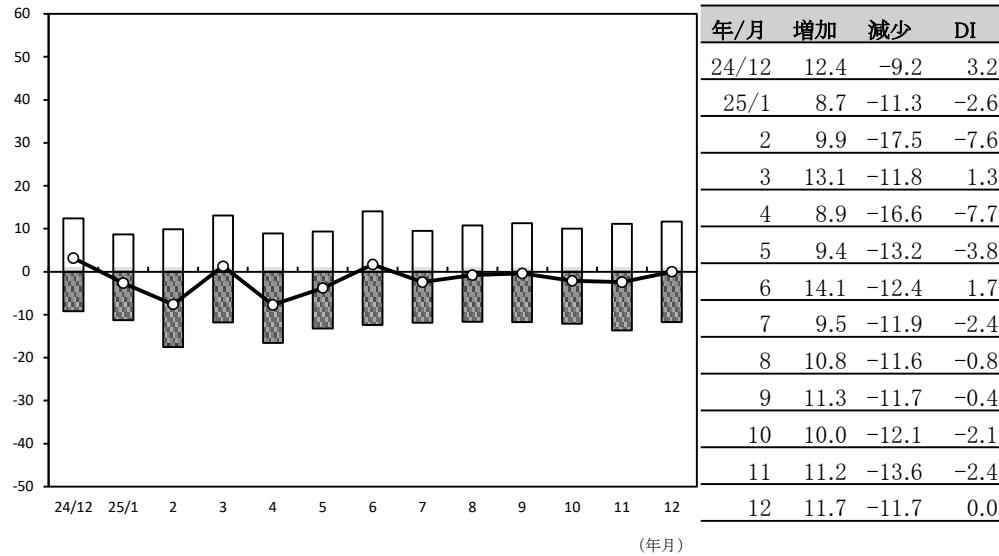


業界の業況

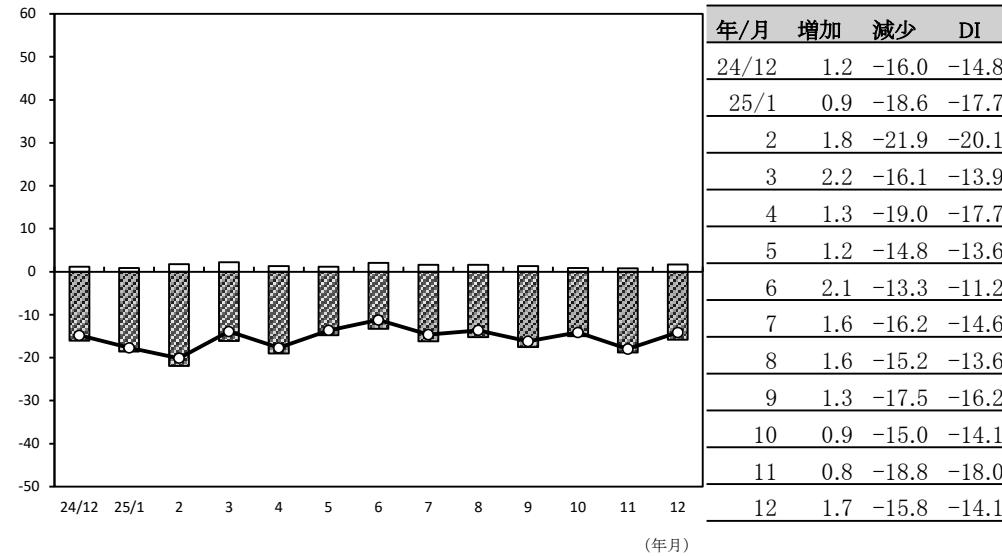


## サービス業 【クリーニング】 (前年同月比)

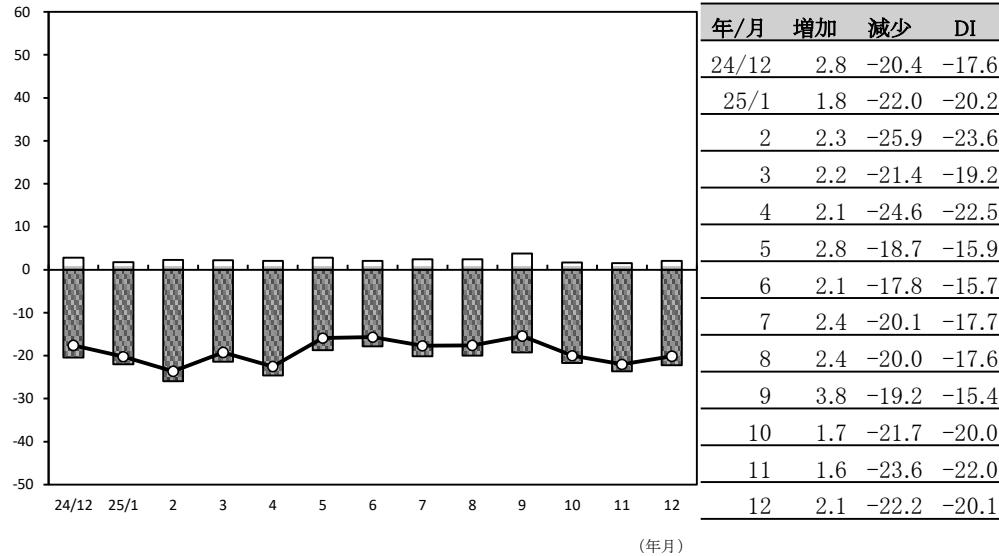
売上額



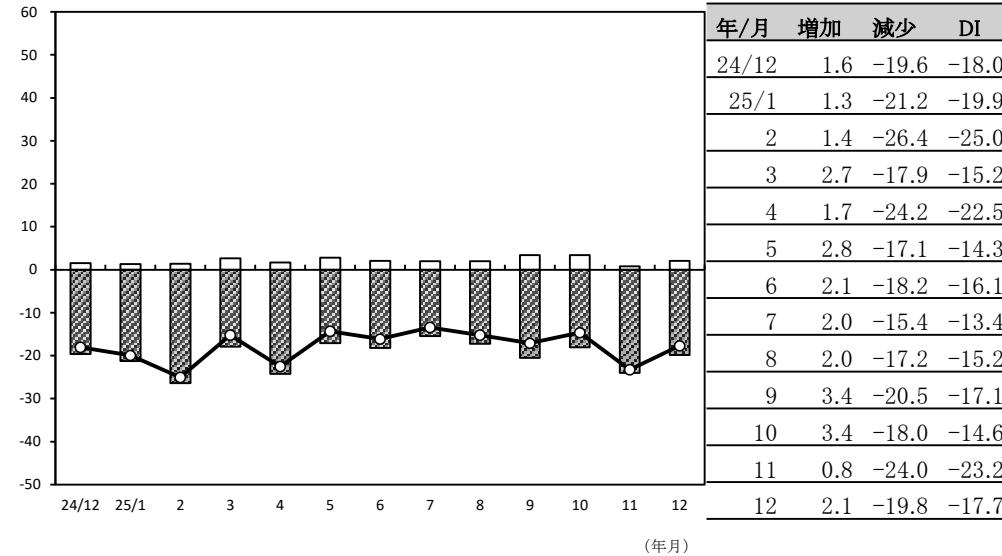
資金繰り



採算

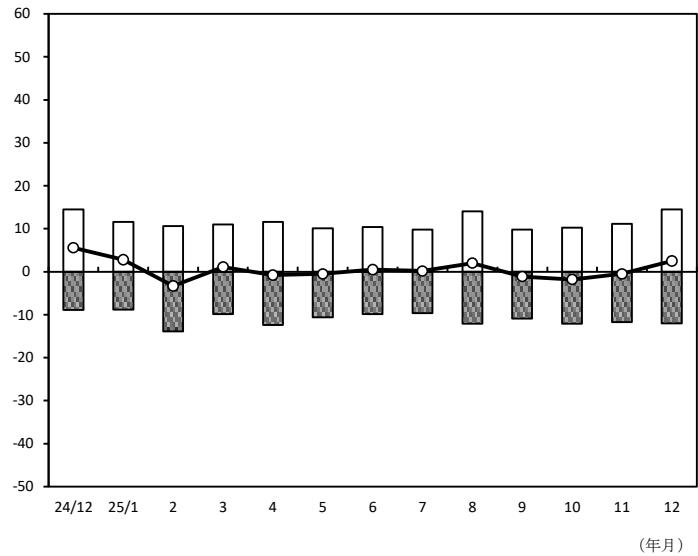


業界の業況



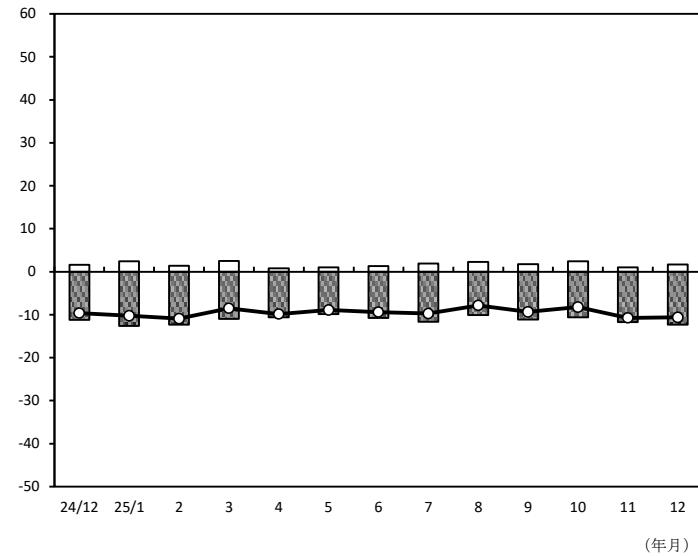
## サービス業 【理・美容】 (前年同月比)

売上額



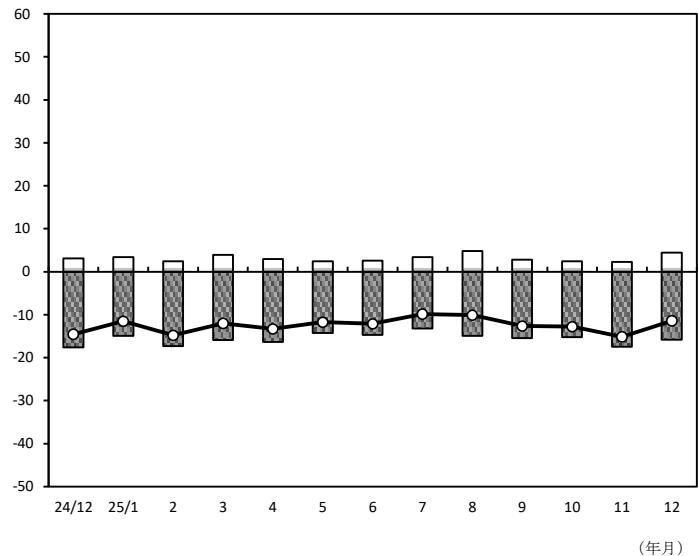
年/月	増加	減少	DI
24/12	14.5	-8.9	5.6
25/1	11.6	-8.8	2.8
2	10.6	-13.9	-3.3
3	11.0	-9.9	1.1
4	11.6	-12.4	-0.8
5	10.1	-10.6	-0.5
6	10.4	-9.9	0.5
7	9.8	-9.6	0.2
8	14.1	-12.1	2.0
9	9.8	-10.9	-1.1
10	10.3	-12.1	-1.8
11	11.2	-11.7	-0.5
12	14.5	-12.0	2.5

資金繰り



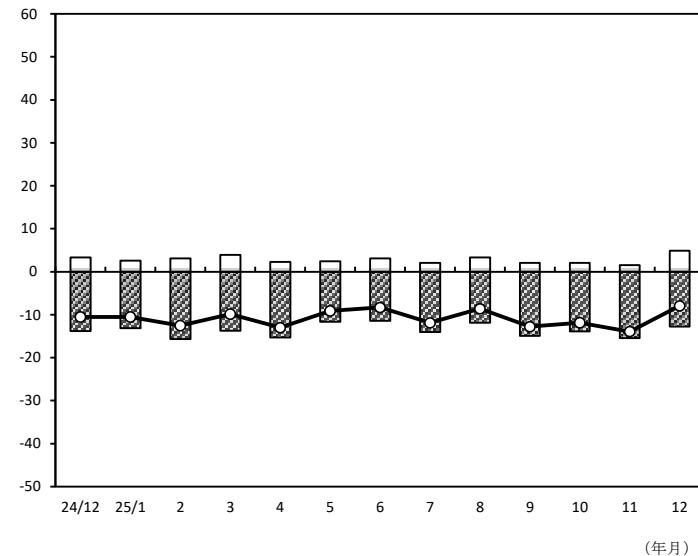
年/月	増加	減少	DI
24/12	1.6	-11.2	-9.6
25/1	2.4	-12.6	-10.2
2	1.4	-12.3	-10.9
3	2.5	-11.0	-8.5
4	0.8	-10.6	-9.8
5	1.0	-9.9	-8.9
6	1.3	-10.7	-9.4
7	1.9	-11.6	-9.7
8	2.3	-10.1	-7.8
9	1.8	-11.1	-9.3
10	2.4	-10.6	-8.2
11	1.0	-11.7	-10.7
12	1.7	-12.3	-10.6

採算



年/月	増加	減少	DI
24/12	3.1	-17.6	-14.5
25/1	3.4	-14.9	-11.5
2	2.5	-17.3	-14.8
3	3.9	-15.9	-12.0
4	3.0	-16.3	-13.3
5	2.5	-14.2	-11.7
6	2.6	-14.7	-12.1
7	3.4	-13.2	-9.8
8	4.8	-14.9	-10.1
9	2.8	-15.4	-12.6
10	2.4	-15.2	-12.8
11	2.3	-17.4	-15.1
12	4.4	-15.8	-11.4

業界の業況



年/月	増加	減少	DI
24/12	3.3	-13.8	-10.5
25/1	2.6	-13.1	-10.5
2	3.1	-15.6	-12.5
3	3.9	-13.7	-9.8
4	2.3	-15.3	-13.0
5	2.5	-11.6	-9.1
6	3.1	-11.4	-8.3
7	2.1	-14.0	-11.9
8	3.3	-11.9	-8.6
9	2.1	-14.9	-12.8
10	2.1	-13.9	-11.8
11	1.5	-15.4	-13.9
12	4.9	-12.8	-7.9

## 小規模企業景気動向調査(12月期)における商工会経営指導員の主なコメント

\*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

### 1. 景気全般

#### ＜改善傾向を示すコメント＞

依然として物価高による仕入単価の上昇はあるが、調査対象の業種については売上額が不変といった業種が多くなってきているように思える。結果からも事業者の方で顧客維持などの施策で自助努力をしている姿が見て取れる。現状では維持することに加えて、売上が若干増えている事例も見れることから、今後の景気動向に注目していきたい。

(福島県保原町商工会)

今回の調査対象とした建設業については、景気が好転しているという印象を受けた。一方で、理美容業については、不変となっている。継続して商工会にて支援を行っていきたい。

(茨城県取手市商工会)

物価高騰の影響については引き続き聞かれるものの、業種や個々の企業の状況を見ていると必ずしも悪いという事ではなく、売り上げや受注を伸ばしている企業もみられる。

(埼玉県東松山市商工会)

例年に比べて、今年は雪は少ないが宿泊客の状況は、昨年同様好調である。インバウンドも好調であり、日中関係の影響はほぼない。

(長野県小谷村商工会)

賃上げ・働き方改革(岐阜県の場合、働いてもらい方改革)といったキーワードの相談が徐々に増えているよう思います。年収の壁の引き上げに伴い、令和8年の従業員給与も「時給UP」「勤務時間増加見込み」「総支給額増額方針」といった意向の事業者の声もあった。

(岐阜県中津川北商工会)

全体的には仕入単価の増加に伴い、価格転嫁した分の売上が増加している。ただ、一部の小規模事業者については価格転嫁できない事業所もある。1月より最低賃金引上げにより経費増が心配である。

(大分県日出町商工会)

#### ＜悪化傾向を示すコメント＞

経費、コスト増のため、利益率が減少傾向。価格転嫁しないと利益がとれない。

(青森県今別町商工会)

状況の悪化に関するコメントもあったが、現状というよりもコスト増加による価格転嫁や、人件費の高騰と仕事量の関係に悩んでいるコメントが多くいた印象。今後の人件費高騰の継続が見込まれる中、事業所によっては廃業の一因になる可能性もあり、注視していく必要がある。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

年末商戦に活気付く月ではあるものの、例年と比較すると停滞気味な景況となった。賞与支給月でもあり、年末に向けて消費が上向き傾向になるかと思いきや、消費者の貰い控えの傾向は根強く、実質賃金が物価上昇にまだまだ追いついていないといった実感を受けた。政策金利の引上げで利息が実感出来る状況にありますので、消費者の貯蓄傾向は今後強まっていくことが懸念され、更なる消費停滞に繋がることが危惧される。

(福島県会津美里町商工会)

賃上げにより人件費の高騰が利益を圧迫しているが、賃上げしないと採用や雇用が守れず厳しい状況である。年末をもって廃業をする事業者が増加傾向である。

(群馬県しぶかわ商工会)

製造業においては、中国経済の低迷や地政学リスク等もあり受注量が安定しない。また、全業種的には賃上げは最低賃金の大幅な引き上げもあり、加えて人手不足の防衛的措置により実現されているが、経営者にとっては負担であり、消費者からすれば実質賃金の低下状態(価格高騰)からまだ抜け出せておらず、消費マインドの向上に結び付いていない。新規開拓やインバウンド需要の取り込み等自社の強みを活かしながら、ビジネスモデルのブラッシュアップが必要と感じられる。

(新潟県寺泊町商工会)

年末年始に向けた消費需要の高まりにより、持ち直しの動きが見られた。一方で、物価上昇や人手不足の影響は依然として継続しており、業種や事業規模によって景況感にはばらつきが生じている。

(富山県射水市商工会)

物価高・コスト上昇により充分な採算確保に繋がらず、資金繰りにも不安が出始めている。業種によって差異はあるが、消費抑制の傾向等により、先行きも慎重な見方が強い状況が続いている。

(山梨県昭和町商工会)

日銀の政策金利の引き上げに伴い借入金利の上昇が見込まれるため、支払い利息増による資金繰りが厳しくなると予想される。

(静岡県菊川市商工会)

仕入価格、光熱費の高騰が利益を圧迫しているが、度重なる値上げに抵抗を感じ価格転嫁に踏み切れておらず、特に地域別最低賃金額への対応に不安を抱いている。

(徳島県阿波市商工会)

12月期においても、物価上昇が続き、消費者の節約志向は前年同月期比で一層強まっている。価格転嫁が一部で進むものの、利用頻度の減少により収益改善には至っておらず、少子・高齢化による地域内消費の縮小も重なり、景況感は引き続き厳しい状況が続いている。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

小規模事業者にとっては厳しい状況が続いている。地域の小規模事業者については人件費や家賃などの固定費を低く抑えている状況で何とかやっていける状況で今後の事業拡大も考えていないことから難しい状況となっている。

(宮崎県高千穂町商工会)

## 2. 製造業

### ＜改善傾向を示すコメント＞

食料品：昨年販売の新商品に対する受注が増えており、供給が追いつかない状況。包材やガソリン代等の経費増が価格転嫁できていないため、利益の増加は少ない。再度価格の見直しが必要。

繊維工業：大きな受注量の変化は無く、副材料などの仕入れは高止まりの状況。従業員の高齢化による生産性の悪化は、設備導入による省力化等で対応していく考え。

機械・金属：先月は本県での熊被害が続いていることを受け、自社製作の箱わなを県に寄贈した。今後も要望に応じていく予定。本業である看板製作は、GS店舗の合併統合の動きが落ち着き、受注量は減少傾向だが、首都圏からの需要は安定している。

(秋田県由利本荘市商工会)

食料品製造業においては、売上は回復傾向にある一方で人件費やエネルギー費の負担が続き、採算や資金繰りは大きく改善せず横ばい。業界全体としては需要回復により緩やかな持ち直しが見られる状況となった。機械金属製造業においては、受注増で売上は改善したものの、鋼材価格の高止まりや人件費・電力費の上昇が重荷となり採算は悪化。資金繰りは横ばいだが、半導体・自動車関連の回復により業況は緩やかに持ち直している。

(茨城県つくば市商工会)

水産加工製造業について、漁獲量が増えたため売上高は増加傾向にあった。

(千葉県勝浦市商工会)

冷凍食品製造業では、物産展への参加などで認知度を高め受注を増やしている事業所もある。

(香川県高松市中央商工会)

輸送用機械器具製造業は、受注は絶えずあり、仕入価格は上昇しているも、価格転嫁もできている。さらに大きく価格を上げていることから、利益率は大きくなっている。賃金上昇について積極的に取り組んでおり、労働者の確保もできている。

(福岡県古賀市商工会)

食料品製造業については、小売店における価格転嫁が進み、利益確保の動きが活発化している。以前よりも転嫁対策が進んでいるものの、十分な転嫁額には至っていない事業者が多い。機械金属製造業については、域内景気の安定化もあり平時になりつつある。

(熊本県熊本市託麻商工会)

### ＜悪化傾向を示すコメント＞

食料品製造業並びに機械金属製造業の関連事業者は物価高騰の影響により仕入れ価格など高値が継続しているも昨年同等に推移している。

(北海道新ひだか町商工会)

機械金属製造関連の事業者は前年度との比較では大きな変化は無いとのこと。その他の製造業関連事業者は仕入や経費の上昇分を価格転嫁しきれてなつたり、値上げの影響による顧客の減少があるとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

食料品製造業関連事業者においては、原材料費およびエネルギー価格の高騰により採算性がやや悪化し、資金繰り面でも厳しさが見られる状況にある。機械金属製造業では、半導体関連や自動車部品の受注が堅調に推移しており、売上は概ね横ばいを維持しているが金属価格の上昇が共通の課題となっている。製造業全体としてはコスト上昇の影響を受けつつも緩やかな回復基調が見られ、今後は適切な価格転嫁の進展が経営安定の鍵となる。

(山梨県身延町商工会)

【酒造業】酒米をはじめとする原材料価格の高騰により、厳しい経営環境が続いている。2025年産では酒米「山田錦」が主食用米よりも安値となる異例の状況が生じ、農家の主食用米への転作が進み、酒米の安定確保に不安が広がっている。原料米価格の上昇に加え、資材・物流費の高騰も重なり、製造コストは増加傾向にある。一部では価格転嫁も進むが、日本酒離れへの懸念から慎重な対応を迫られている。一方、海外輸出の拡大や「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録を背景に、インバウンド需要や観光連携への期待も高まっており、今後は付加価値型展開が重要となる。

(滋賀県甲賀市商工会)

繊維工業では、売上は横ばいから微増で推移しているものの、最低賃金上昇による人件費増が資金繰りを圧迫している。価格転嫁を試みた事業者もあるが、値上げにより受注を失うケースも発生しており、先行きの不透明感が強まっている。

(京都府福知山市商工会)

製造業全般では、業種によって明暗が分かれています。食料品製造においては、年末年始の仕出し弁当の需要が好調で、非常に多忙な状況にあります。一方、繊維工業では受注が前年比で悪化しており、安価な量販店との競争に加え、最低賃金の引き上げが経営の負担となっています。また、機械・金属工業でも為替レートの影響による原材料価格の上昇が続いていること、コスト増が収益を強く圧迫しています。総じて、季節的な需要がある一部を除き、原材料高や人件費上昇分を十分に価格転嫁できていない状況が見て取れ、先行きについては慎重な見方が続いている。

(鳥取県米子日吉津商工会)

地域消費者の高齢化や物価高騰の影響により、1年を通して厳しい状況が続いた。比較的動きが見られる12月は仕事量自体はあるものの価格転嫁が十分に進まず(しばしば実施できない)、いくら対応しても追いつかない状況となっている。

(島根県まつえ北商工会 八束支所)

年末にかけて年末商戦が活発化している11月から1月にかけては売上が増加し、また年度末3月には、学校関係や企業の制服需要があることから在庫の確保などが必要である。(衣料品製造関係)

(広島県黒瀬商工会)

材料費に伴う価格転嫁は進んでいるが、賃金引上げによる労務費の転嫁は進んでおらずやや採算は悪化となっている。気候変動や豚熱の影響で豚肉の卸価格が高騰していたが、前年に比較すれば落ち着いてきた

(佐賀県太良町商工会)

### 3. 建設業

#### ＜改善傾向を示すコメント＞

新築住宅着工増加傾向。50年夫婦ローンにて申し込みが増加。リフォーム案件も増加。極小住宅での要望が増加傾向。

(山形県南陽市商工会)

受注は増加傾向ではあるが、引き続きの人手不足と原材料高で下請けほど利益確保に苦慮している  
(東京都小金井市商工会)

震災発生後の令和6年2月から忙しいのが続いている。以前はリフォームが中心であったが、新築も多くなつてきている。

(石川県能登鹿北商工会 田鶴浜支所)

業界全体としては引き続き堅調に推移している。特に年末にかけては、金利動向等を背景とした新築住宅の駆け込み需要が見られ、受注は増加した。一方で、令和8年度以降は新築需要の反動減が見込まれており、今後は受注量の減少を予想している。こうした中、住宅取得負担の軽減策として住宅版残クレローンの導入が進んでおり、動向を注視している。

(岐阜県大垣市商工会)

当地域は、大雪に見舞われることもないため、天候も安定しており作業も滞りなく進むことから採算悪化になりにくい。前年同月と比較しても天候は穏やかであり、作業に支障はない。

(三重県伊勢小俣町商工会)

リフォーム工事関連の事業者は、原材料費や各種経費増加に伴う販売価格上昇の為、消費者が時期を見定めるケースがあり、発注を検討されても即決されない動きが見える。ただ建設業全体ではやや好転という景況感。年末においては、働き方改革の影響か、以前より年末年始休暇に入られるケースが多くみられたとの声もあった。

(佐賀県多久市商工会)

公共工事が進んでおり、それに伴って売り上げも順調に増加。工事資金の資金繰りが次の課題である。  
(沖縄県豊見城市商工会)

#### ＜悪化傾向を示すコメント＞

降雪地帯のため、冬期間は工事高が減少することが要因となっている。

(青森県藤崎町商工会)

民間受注は相変わらず足踏み状態であり停滞しているが、一部では更なる金利上昇の不安感から駆け込み需要も見受けられる。これまで慎重になっていた消費者も、先行きの見えない金利上昇により今後は更に返済負担が増えることを懸念して発注に踏み切ったケースもあるという。しかし、業界では深刻な人手不足も払拭されておらず、受注した工事が工期内に終われるかどうか不安な面も抱えているとのこと。

(福島県会津美里町商工会)

物価高騰に対する価格転嫁、値上げのタイミングを見計らっている状況。4月から値上げを考えているが、採算の好転では無く顧客の減少に繋がるのではないかという不安ほうが大きい。

(宮城県みやぎ仙台商工会)

仕入価格が高騰し適正な価格転嫁が困難な中、従業員の賃上げにより経営状況に影響を与えている。また働き方改革により土曜休業が進められるが、工期は変わらないこともあり現場の負担が大きい。

(東京都東大和市商工会)

建設業者は、年末のかけこみ受注により、売上が増加したが、採算ベースでは悪化している状況。

(神奈川県小田原市橋商工会)

12月に限った傾向ではないが、一人親方や小規模の建設事業者は、好調な方と不調な方との二極化が進んでいる印象を受ける。建設工事全体のパイが縮小したことに伴い、小規模の事業所間の競争が激化している印象。特に高齢の事業者をあえて選ぶ機会が減ってきていると聞く。廃業を検討しているとの声も聞く。

(岐阜県中津川北商工会)

1月は売上の少ない月ではあるが、特に個人宅のリフォームの受注が少ない。物価高や基準金利引き上げにより消費者のマインドが冷え込んで切るように感じる

(静岡県吉田町商工会)

仕事自体はあるが、仕入れ単価の上昇が激しく、採算性のある受注に至っていない事業所が多い印象を受ける。

(奈良県田原本町商工会)

原材料の高騰に加え、依然として従業員の確保が困難な状況が続いている。事業運営上の大きな課題となっている。利益状況は来期も含め減少傾向にあるものの、資金繰りについては若干の改善が見られる点は明るい兆しである。しかし、人手不足と資材価格の上昇という構造的な問題が経営に重くのしかかっており、受注機会の損失や工期の遅延といったリスクを常に抱えている状況といえる。

(愛媛県西予市商工会)

年度末に向けて工事量は全般的に増加しているが、引き続き資材の高騰や人手不足による機会損失の発生を注視し、省人化と生産性向上を併せて実施していく必要がある。

(長崎県対馬市商工会)

住宅関連や工場・倉庫建設など一定の受注はあるものの、資材価格や人件費の上昇により採算は圧迫されている。人手不足も慢性化しており、工期調整や外注費増加が資金繰りに影響を及ぼしている事業者が多い。

(熊本県大津町商工会)

ハウスメーカーの参入や消費者の住宅購入控えで地場工務店の受注工事が減少。

(大分県中津市しもげ商工会)

工事量は一定量あるも人手不足で工期内完了が厳しい状況である。

(鹿児島県伊佐市商工会 菱刈支所)

#### 4. 小売業

##### ＜改善傾向を示すコメント＞

食料品小売業については、クリスマスや年末年始に向けて売り上げが伸びている。

(埼玉県東松山市商工会)

仕入単価の上昇とお客様の節約志向の継続が見られる。熱料費(ガソリン)の値下げで助かっている。

(福岡県添田町商工会)

あらゆる物の価格が高騰し、これが一般化しつつある。消費者意識も安売りから品質を求める志向が強くなっていることからも安定傾向にある。

(熊本県熊本市託麻商工会)

##### ＜悪化傾向を示すコメント＞

地方の小売店では、大手チェーン店の出店やコンビニに押され売上の減少が続いている。仕入価格の高騰や売上の減少により資金繰りが厳しい。廃業をする事業者が多く特に高齢者は日常の買い物ができず不便さが増している。

(群馬県しぶかわ商工会)

物価上昇により名目売上は底堅く推移する一方、消費者の節約志向が強まり実質的な需要は伸び悩んでいます。仕入コストや人件費の上昇が続き、採算面では厳しさが残るなど、全体として不透明感のある状況が続いている。

(埼玉県幸手市商工会)

年始への準備として小売業全般として購入需要は増加傾向にある。しかし、仕入れ単価の上昇が厳しく、価格転嫁も実施はしているが収益性はトントンである。物価高騰による買い控えが継続しないかが今後の課題である。

(東京都福生市商工会)

衣料品小売業は、主な客層は高齢者であり売上金額は前年並み。食料品小売業は、販売単価を上げているので売上は増加しているが、仕入価格上昇分のすべてを販売価格に転嫁できるわけではないので、利益は前年並みか減少傾向。家電小売業は、対消費者では衣料品小売業と同様の傾向。対事業者では、高齢の事業主に代わって外国人や県外の事業者が増えており、それらの事業者は地元の業者を使わずにネット等で購入する人が多いため、売上が減少している。

(新潟県妙高市商工会)

食料品小売業の事業者においては、正月需要は一定程度見られるものの、人口減少により例年を下回っており、価格が上昇していることによって、何とか売上を維持している状況

(石川県富来商工会)

物価高の影響で消費者の買い控えが続き、販売数量・客単価ともに厳しい状況が続いている。値上げ対応が進んだ事業者では一定の収益確保が見られるものの、価格競争力に乏しい業態では収益圧迫が顕著である。今後については、消費マインドの改善次第ではあるが、当面は慎重な見通しが多い

(岐阜県大垣市商工会)

物価高による買い控えも続いているが、ネット利用者も増加している。物価高の影響で急速にリアル店舗の利用率が低下しているのではないか。

(静岡県東伊豆町商工会)

食料品小売では、店舗改装効果やクリスマス需要により、対象商品のワイン売上が前年対比1.5倍となる成果が出ている店舗がある。菓子店ではクリスマスケーキの受け渡しで24日は非常に繁忙であったが、翌日には落ち着くなど短期集中型の傾向が見られた。家電や自動車関連では、暖房器具の動き出しやタイヤ交換需要が一巡し、落ち着きを取り戻している。

(兵庫県丹波市商工会)

衣料品:問屋の廃業により、店頭商品が減少。今後も厳しい状況が続くと予想。

食料品:売上は横ばいだが、仕入価格は増加傾向である。人件費増などもあり、今後も厳しい状況が続くと想定される。

耐久消費財:物価高への根強い懸念から消費者は生活必需品への支出を優先し、売上は鈍化傾向。原材料費、物流コスト、人件費上昇などが懸念材料。

(鳥取県琴浦町商工会)

自動車販売業:自動車販売価格の上昇、昨今の景気動向より、消費者は車の買い替えについて非常にシビアになっている。車の性能も年々よくなっているが、突発的な事故や故障、家族構成の変化等がない限り、新車発注を受ける機会は減少した。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

気温の上昇や正月用品の需要減退、物価高に伴う買い控えにより、衣料品や食料品、耐久消費財の全般で売上が前年を下回っている。メーカーからの委託販売依頼の増加や、生産者の人手不足を背景とした仕入価格の高騰が続いている。経営環境は非常に厳しい。後継者不在による廃業も散見され、LEDなど一部品目の高騰も継続している。消費者の節約志向が強く、業界全体として悪化傾向にある。

(福岡県みやま市商工会)

耐久消費財小売業者は、暖冬の影響か、暖房機器の売り上げが減少している。

(長崎県新上五島町商工会)

各商品の値段もあがり、自社業界も少しづつではあるが、仕入値も上がり商品もあげなくてはいけない。どうしても単価が下がり、数量克服しないと厳しい。お客様が他店と比較されることもあり、金額では、同業者対等では厳しい。

(熊本県芦北町商工会)

急激な売上減少ではなく徐々に売上高が減少しており仕入れ価格は増加傾向にある。小規模事業者にとっては先の見えない状況が続いている。

(宮崎県高千穂町商工会)

## 5. サービス業

### ＜改善傾向を示すコメント＞

美容室を営んでいる会員より、12月の予約が全て埋まったとのことで、非常に好調であるというお話を伺つた。

(宮城県遠田商工会)

理美容業：ボーナス時期もあり、店舗が割と出ました。年末時期に合わせて予約、調整される方が多かったので、わりと予約の流れが良かったと思う。

(秋田県潟上市商工会)

サービス業については年末に向けての需要増があり、前年同月を上回る事業者が多く見受けられた。洗濯業についても、コンビニ跡地に新規出店があるなど、利用者がある程度見込まれる場所への出店が続いている。

(千葉県香取市商工会)

昨年に比べて12月の雪が少なく、スキー場の整備等が完全ではないが、宿泊客に関しては12月ほぼ昨年同様であった。2月末まではほぼ宿泊予約が入っており、好調な状況である。

(長野県小谷村商工会)

理美容業は年末需要により予約が埋まり、非常に好調に推移している事業所あり。旅館・宿泊所については、業界全体として順調に推移しているとの報告があり、ビジネスホテルの新設稼働が周辺の関連業者(クリーニング等)にも波及している。ただし、インバウンド(外国人観光客)の戻りはまだ見られないとの声もある。飲食業は忘年会シーズンで客足が戻りつつあるが、降雪によるキャンセル発生や、大人数の宴会が完全には戻っていない状況も見られる。クリーニング業は需要が落ち着いており、コインランドリーとの競合などで厳しい。全体として人手不足により、予約を制限せざるを得ないなど機会損失が発生している。

(兵庫県丹波市商工会)

サービス業関連では、年末需要を背景に利用者数が増加し、全体としては比較的好調に推移している。インバウンドによる影響は限定的であり、特定の業種に偏った動きはみられない。業種間で大きな差は生じていないものの、景況感としては総じて昨年並みの水準を維持している。

(岡山県岡山北商工会)

宿泊業の稼働率は8割以上であり、売上も増加傾向にあります。しかし人手不足が改善できず、ホテル内のランチ営業やディナー営業のサービスを縮小しながら対応している状況も散見される。

(鹿児島県知名町商工会)

### ＜悪化傾向を示すコメント＞

村内での大規模工事が終わり、工事関係者の宿泊客が減少傾向にある。そのため売上もやや減少傾向にある。

(青森県東通村商工会)

宿泊業を含め観光関連は、熊出没により予約キャンセルなど国内旅行者を中心に相次いでいる。一方インバウンドはチャーター便により一定数訪れていることから大幅な減退とはなっていない。クリーニングは宿泊関連の需要低下のほか、物価高が影響しクリーニングを控える動きがみられるとのこと。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

旅館・宿泊所関連の事業者はインバウンド・国内観光需要の回復のため売上が増加し、採算・資金繰りも好転している。洗濯業は宿泊需要に支えられ売上がやや増加したがコスト高で採算は悪化しており、理美容業は消費低迷で売上・採算ともにやや悪化している。サービス業全体では観光分野の堅調さが支えとなっているが人件費高騰が課題となっている。

(山梨県身延町商工会)

9月から価格転嫁をしたため売上は伸びている。しかし経費の値上げも影響している。取引先が増えたことで売上も伸びてはいるがその分人件費も増加した。一般的のクリーニングはコロナの影響で在宅勤務が増え、スーツを買わない人が増えた。また、家で洗濯できてしまう商品も増加したため業界的には悪化している。

(岐阜県川辺町商工会)

サービス業特に理美容業は客層・客質によって業況が異なってくると感じている。昔からある美容院・床屋はお客様の高齢化により、常連さんが足を悪くされたり、亡くなられたりする現状があり、新規顧客もほとんど売上の低下につながっている。若い人向けの床屋や美容院は好調なところもあり、組合の方の話を聞く限りでは、業況が悪いところもあれば、良いところもあるのではないか。

(滋賀県高島市商工会)

旅館業は万博閉幕以降、好調を維持している。松葉ガニの価格も安定しており昨年に比べて仕入単価も低下。洗濯業は旅館業が好調なこともあり、旅館関係の仕事が増加している。理美容業は厳しく仕入問屋が廃業する情報も入っており、人口減と共にさらに経営が厳しくなることが予測される。

(兵庫県新温泉町商工会)

旅館・宿泊では季節需要は高いものの、都市部と比べると客数の伸びは弱く、売上高は前年同期と同程度で推移。人手不足が依然として足かせとなっており、書き入れ時であっても稼働率を制限せざるを得ない宿泊施設も一部で見られる。洗濯業では価格転嫁により売上は前年比増であるものの、物価高騰による節約志向、家庭洗濯(ウォッシュシャブル化)の普及等で、ワイシャツやスーツなどのクリーニング需要が減っており、ビジネス衣類の持込点数が減少している。理美容は年末の帰省客で繁忙期となり、SNS等で情報発信をしなくとも新規顧客を獲得している先もある。全体的に業況は安定しているが、高齢化による常連客の先細りを懸念している。

(鳥取県鳥取市西商工会)

温泉旅館では昨年末より年末年始の客入が悪いとの声。またインフルエンザでのキャンセルもある。

(島根県石央商工会)

宿泊サービス業客数やや増加、仕入上昇、価格転嫁十分にできていない。クリーニング業売上やや増加、洗剤等価格上昇するも同業他社との関係でサービス価格を思うように上げられない。

(鹿児島県薩摩川内市商工会)